北支

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十七年三月十五日印刷納本
昭和十七年四月一日發行（毎月一回一日發行）第三十五號

愛路工作

愛護村

近代の交通機關が國家社會の動脈であり、産業文化開發の礎石であると共に國防上の輸送兵器であり又北支、蒙疆にありては直ちに皇道宣布のルートであり防共の砦たる事には誰しも異論なき所であらう

此の北支、蒙疆に於て水陸兩交通路の綜合的經營に任ずる爲に創設せられたる華北交通は、今次支那事變の最も輝かしき成果であり、國民血肉の結晶であると共に防共東亞の前衞基地をなす此の地域にありて赤化ルートを封殺する重大使命を擔つて居るものである

大東亞戰爭の序曲をなす支那事變が、東亞民族を奴隷化せんとする舊秩序維持思想と、之が解放を目的とせる新秩序建設思想との激烈なる戰闘たる如く東亞に於ける此の事變が全く思想戰を根柢として出發して居る事は生きたる歷史の事實である

興亞ルートとも稱すべき華北交通と此の運營路線を圍繞する沿線住民との間に此の思想戰を闘ひとる爲に起きた一つの運動を今日愛路運動と呼んで居る

鐵道は國の動脈である。寫眞は大行山脈を横斷する列車

愛路運動に參加する華北交通沿線の村落、之を愛護村と名付け之を敢て規定するならば今日華北交通運營路線兩側各十粁以內にある村落は皆愛護村であり、その數八千、人口約三千萬を算するのである

愛護村とは謂はば北支、蒙疆に於ける東亞新秩序建設の先驅的役割を果す中核地帶であり、華北交通と愛護村との合作による愛路運動こそ此の地域に於ける東亞新秩序建設の推進をなすものに外ならぬのである

愛護村は現在北支、蒙疆の人口一億とすればその三分の一たる三千萬を擁し此の愛護村民と華北交通十二萬社員との善隣協和によつて築き上げられ行く興亞大業の礎石とも謂ふべき愛路運動こそ、吾等永遠の指標たる大東亞共榮圈確立の搖がざる中核體を形成するものである

このやうに民衆は北支、蒙疆に於ける興亞の基線華北交通防護の爲に擧り起ち、華北交通又皇道宣布のルートとして沿線住民に產業文化一切の恩澤に浴せしめんとする所謂「愛民愛路」、鐵路は民衆を愛護し民衆は鐵路を愛護し眞に民路合作して共榮樂土の基地建設こそ華北交通と愛護村との使命である

愛護村こそ反共和平建國の旗印を掲げて起ち上がつた新中國を象徵する興亞運動の第一線に立ち向ふ英雄の代名詞に外ならないであらう

愛護村民は平和を樂しみ、生業にいそしむ

愛路工作

通州日輪道場

愛護村なる大陸の新らしき村には新らしき村を作るべき指導者を必要とする

華北交通が支那事變ゆかりの地通州に、之等愛護村指導者の養成機關を設置して居るが、此處では大陸の建設に若き血をたぎらせて集つて來た日華青年を收容して徹底的に六箇月再訓練するのである

此處の教育方針は勤勞を通じて精神を會得し實際に觸れて眞理を究め支那の農村、農民、農業技術から言語、宗教、社會、その他一般民衆工作員としての一切の教育が施されることになつて居る

彼等は灯もなき村落に入つて實際農民を友とし、大地を凝視して新らしき大陸の村、愛護村の建設に專心するのであるが、斯る青年の熱情こそ地に埋もれて朽ち果てて行く一握の草の如しとは言へ、之あつてこそ大地は甦り新らしき思想は芽生え、興亞運動の基地は形成されて行くのである

天地根元を象徴する大陸の日輪道場、此處から八紘一宇の思想はほとばしり新らしき人と新らしき村は建設されて行く。此處の正しき名稱は華北交通鐵路警務學院通州分院と言ふのであるが、人呼んで通州日輪道場と謂ふ

作業を終へて

作業

日輪兵舎内の生活

作業

愛路工作

愛路列車

愛護村民にとつて愛路列車の巡回ほど待ち遠しいものはないのである

日頃何等の樂みもなく、太陽と星のみが外界の現象に過ぎない村々の人にとつて、愛護村創設以來、華北交通が年に春秋二回運行する愛路列車こそ、目と耳と口とを同時に娯ませ、慰めて呉れるものはない

愛路列車は通常、映畫、演劇、物品廉賣、施療施藥の外農具、作物、家畜の新しい知識を啓發する産業車や時局認識を徹底さす宣傳車等二十數輛を連結した大陸のショーボートである

愛路厚生列車到了

愛路車・普及愛路思想 大模型

産業車・陳列各種改良農具及改良種的猪鷄介紹

廉賣車・貨物齊全物美價廉

施療車・治病給葯不收費用

娯樂車・電影・話匣子・各種雜耍

廉賣車

施療車

隨意觀覽不取分文

快來吧！快來吧！

日期 四月三日

地点 包頭站

「厚生列車來る」のポスター

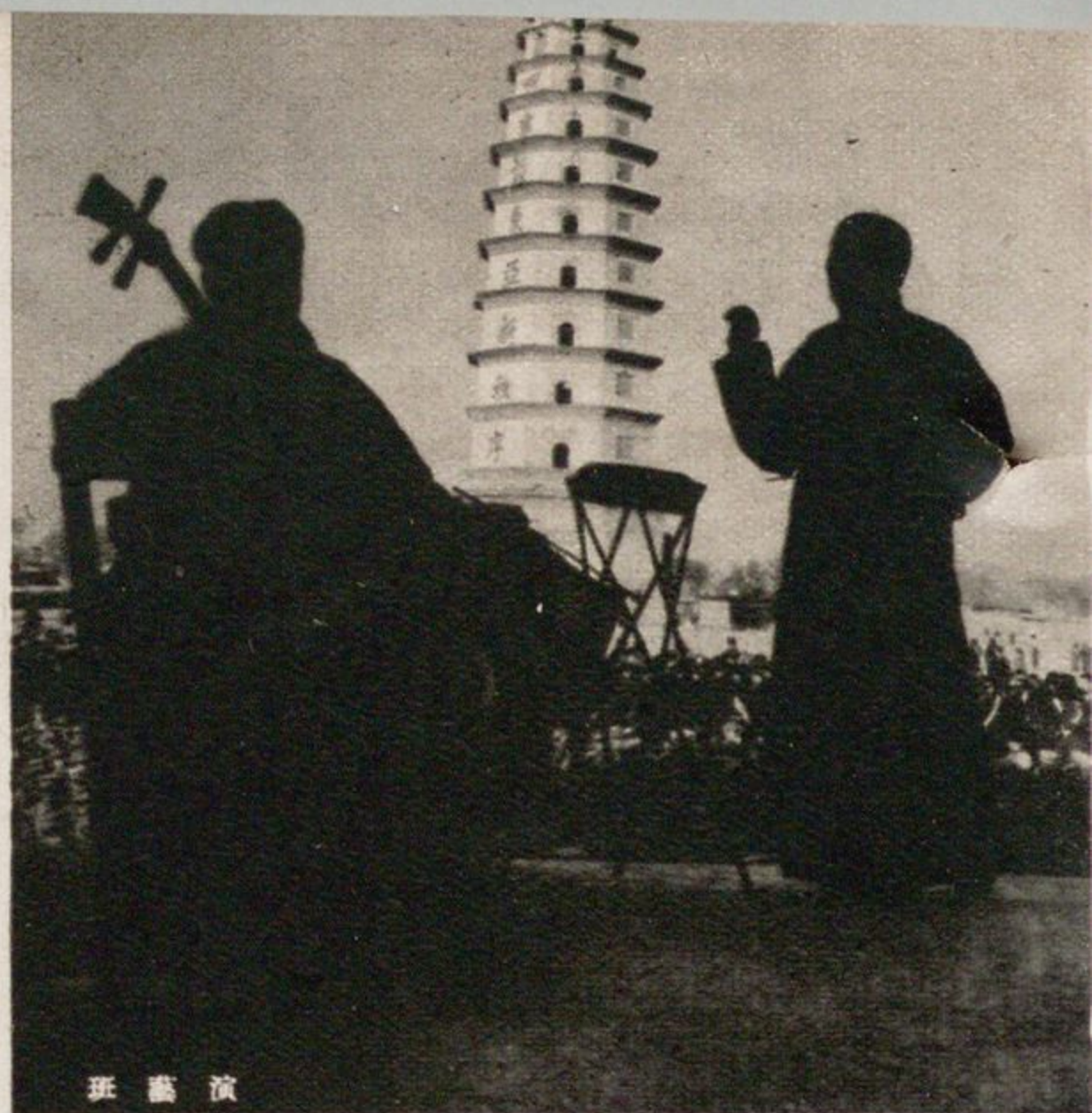
さあ來た、どつと押寄せた村民の浪

愛護村長が先づ食堂に招待される、生れてはじめて見るもの、そして食ふもの、コーヒーなどを甜めるやうにして、うまいやうなまづいやうな……

何かお役に立てばと自ら進んで老いの身を自警團に投じて路線を守る老愛護村民

愛路工作

待ちに待った自動車来了ノ

活躍する施療班——醫藥に接したことがないので、唯一回の施藥で大抵の病氣は癒るといふ

愛路自動車

列車の外に愛路自動車がある。歴政の下に呻吟し文化の惠澤に浴したことのなかつた中國民衆は之によつて新秩序下の治政を端的に感得し謳歌し呪ふべき過去の歴史をかなぐり捨てて「新政好日」の聲を連發して居るのも中國の歴史とその歴史の中に生きて來た農民の眞實を知る者にとつては宜なる哉と思はれる

此の外廉賣車、醫療車等は常時運行して愛護村民の便宜に備へて居るが、之等は遠く愛護村外の民衆に迄その聲價を高めて居ると言ふことである

演藝班

愛路工作

滿艦飾の厚生船が景氣よく入港

河川行政權の代行、民船集團輸送の開始等により華北交通の水運經營は著々充實し今や主要河川四千餘キロに經營

次の港へ出發をいつまでも見送る村民の群

めて愛路厚生列車、厚生自動車についで愛路厚生船が登場したが內陸深く從來殆んど文明の光に浴し得なかつた住

愛路厚生船

厚生船來了

路線を開拓した。地方産業の開發、民衆宣撫上に果しつつある水運路の役割は大きい。この水運路線住民へ昨年始

民たちには厚生船の齎した總てが驚異であり熱狂的な感激を以て迎へられた

村民は心から厚生船を歡迎する

少年隊員

愛路工作

愛路少年隊

華北に於ける愛路少年隊の活躍は餘りに名高い

彼等が愛護村の花形として新らしき中國の先驅者として、愛路運動の爲に捧げつゝある熱情は全く感服の外ない。舊き思想に災されざりし純白の魂に興亞の息吹きが力強く盛り上がつて、新らしき中國は建設されて行く

新らしい國家は人間の新らしき教育によつて完成され其處から新しい歴史は書き初められる

全く、愛路少年隊こそ、興亞のホープである

匪賊の逮捕、情報の蒐集、日語の普及新作物の栽培、之等は愛路少年隊が先驅的役割を果して行くのである

特に匪賊事故の未然防止など年に數百件を算するのは、彼等の若き魂の發露に外ならないであらう

現在隊數六百七十二、隊員約二萬六千愛路塾に學び、共作圃に耕し、晴耕雨讀の勤勞教育を授けられつつ中國の新らしき農村の少年は育まれる

彼等の新らしき健全な思想と、若さと熱情と、睦隣の誠とは必ずや防共華北の先鋒として雄々しき鬪ひを展開せずには居ないであらう

それは彼等の此處四年來の實績より見て既に立證される所である

愛路少女隊

中國の女性史は閨房の帳の陰にあつて書かれて來た

此處に於ても新らしき中國は新らしき女性を作り上げて行くであらうが、それはアメリカニズムに災されて男女同權を叫ぶ如き女性ではなく、家庭にあつて後顧の憂なきに到らしむる内宰相たる女性の育成にあるだらう

此處に於て愛路婦女隊の主要目標は、愛路運動の家庭的氣運の釀成、勤勞婦人たる資質の向上にある

彼女等に學びとらせるものは知育、德育の外に副業技術の習得、新生活體制確立への準備に教育の主眼が置かれて居る

現在隊數二十、隊員五百名程であるが新らしき線に沿つて起ち上がつて來る彼等の動向は實に活潑なるものがある

少女隊、日本語の時間

愛路工作

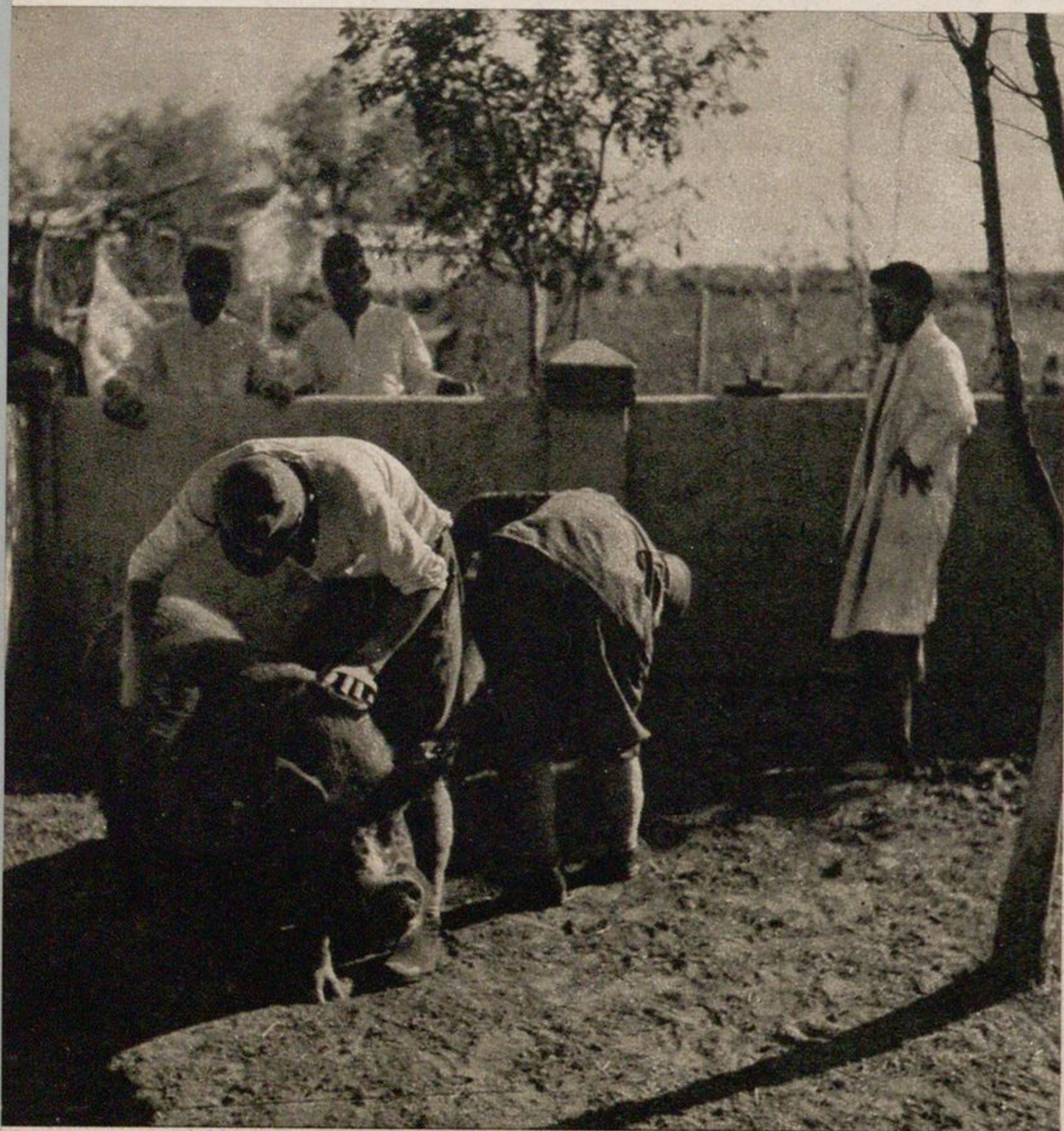
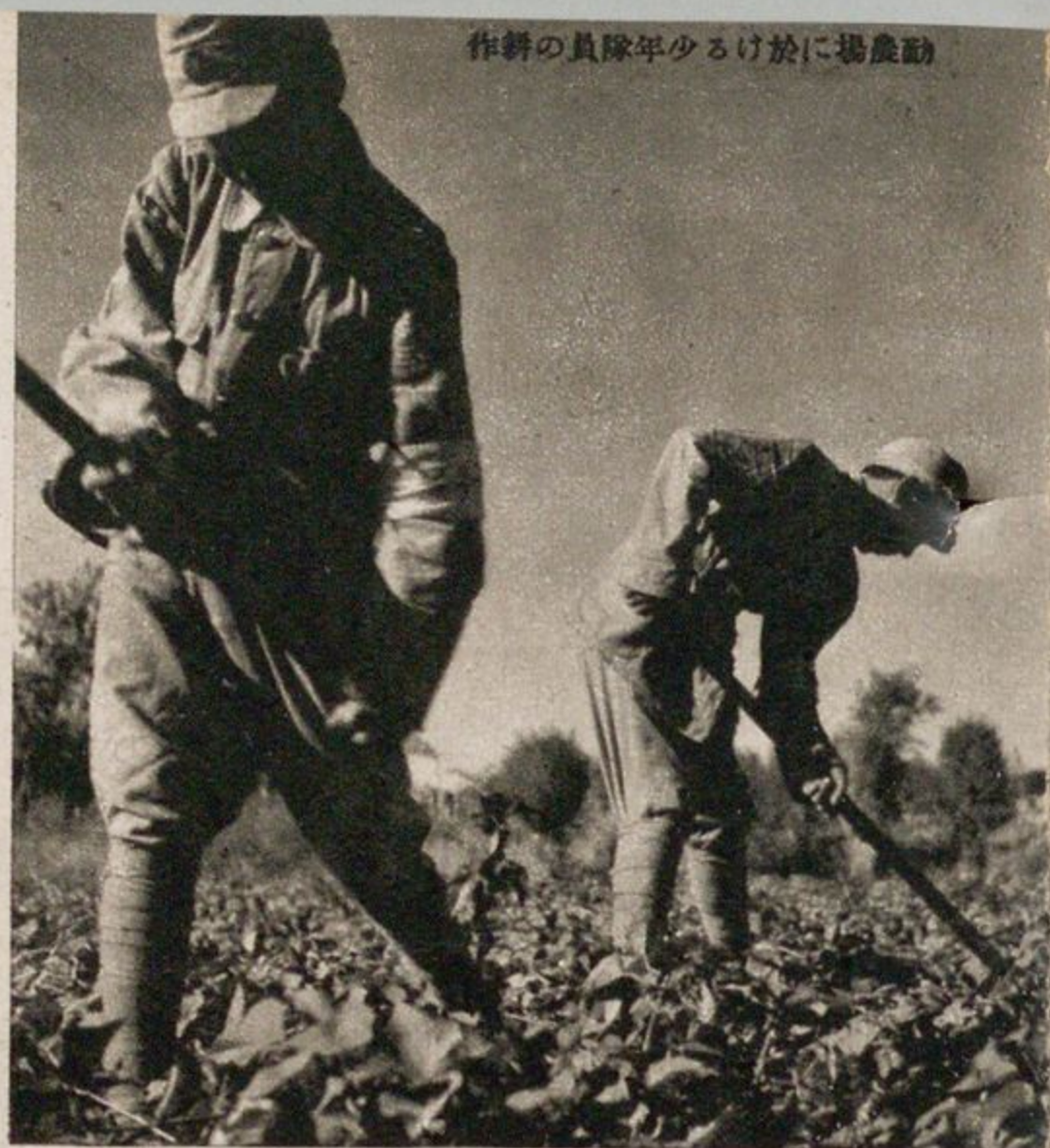
愛路惠民研究所

愛護村とはその名の示す如く農村であり、中國にあつては、人口の九割が農村居住者にして全人口の八割五分が農民と言はれるのであるが、實際、農村程今日迄置きざりにされて來た所はないであらう

此の點に鑑み華北交通が沿線主要地十四箇所に愛路惠民研究所を設け、農村中堅人物の養成、作物、家畜の改良增殖や優良品種の配付又は農業技術の指導に任ぜしめて居るのであるが、今や著々その成果を收めて居る

之が下部機構として各驛に愛路塾と共作圃を設け教育及び產業文化發展の爲の機構を整備すると共に模範愛護村を設けては此處を中心として見本展示的指導を行ひ又施療所問事處五百六十箇所を設置して福祉增進に邁進して居るのであるが、全く苛まれ來つた中國農民にとつて是等の與へた心理的影響は寔に特筆すべきものがある

之等を感得した愛護村民が晝となく夜となく運行され行く汽車、自動車、汽船を匪賊の妨害より護り續け、此の爲に、年に百數十名の犧牲者を算しつつも、更に愛路運動が燎原の火の如く華北の曠野に擴がつて行くことは東亞新秩序建設の未來を卜する瑞祥に外ならないであらう

愛路勸農場に於ける棉花畠

勤農場に於ける少年隊員の耕作

愛路惠民研究所に於ける家畜品種の改良

日本人指導者によつて、彼
等は高度の技術を體得する

模範村民の表彰

愛路惠民研究所に於ける
品種改良の實驗

北京中南海公園

春水

裏萬壽山

天子の夢通ふ江南の春は北京に移されて驚くべき人工となり、今はいたづらに游子の心を虚しうする、春の水は未亡人の鏡のやう、冷にして且つ曖

春水纔かに深きこと數尺强
烟波渺渺天光に接す
落花漲り盡くす江南の雨
一夜閑鷗夢もまた香し

（釋　太白）

西山の

碧雲寺

北京の西山には到る處に名刹として知られてゐる寺院があるが、碧雲寺はとりわけて人々に知られてゐる

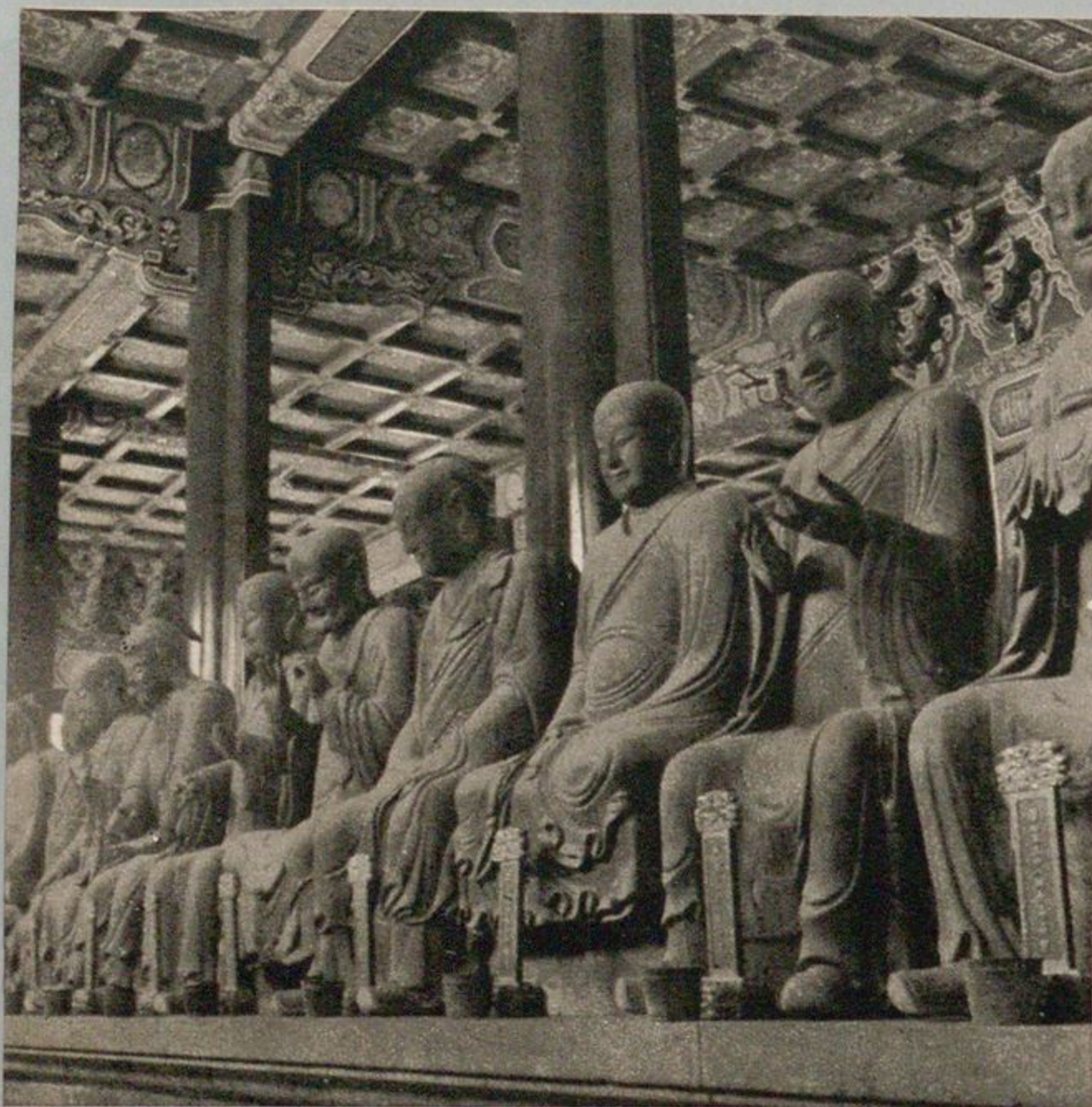
この寺は清朝時代の離宮たる香山靜宜園の東、程遠からぬ山懐に在る。元の耶律楚材の後裔にあたる耶律阿勒彌と云ふものが、邸宅を寄進して創めたものと傳へられ當時は碧雲庵と稱した。明代になつてから宦官の于經と云ふものが、この寺の大旦那となり、その結

石牌樓より總理衣冠塚を望む

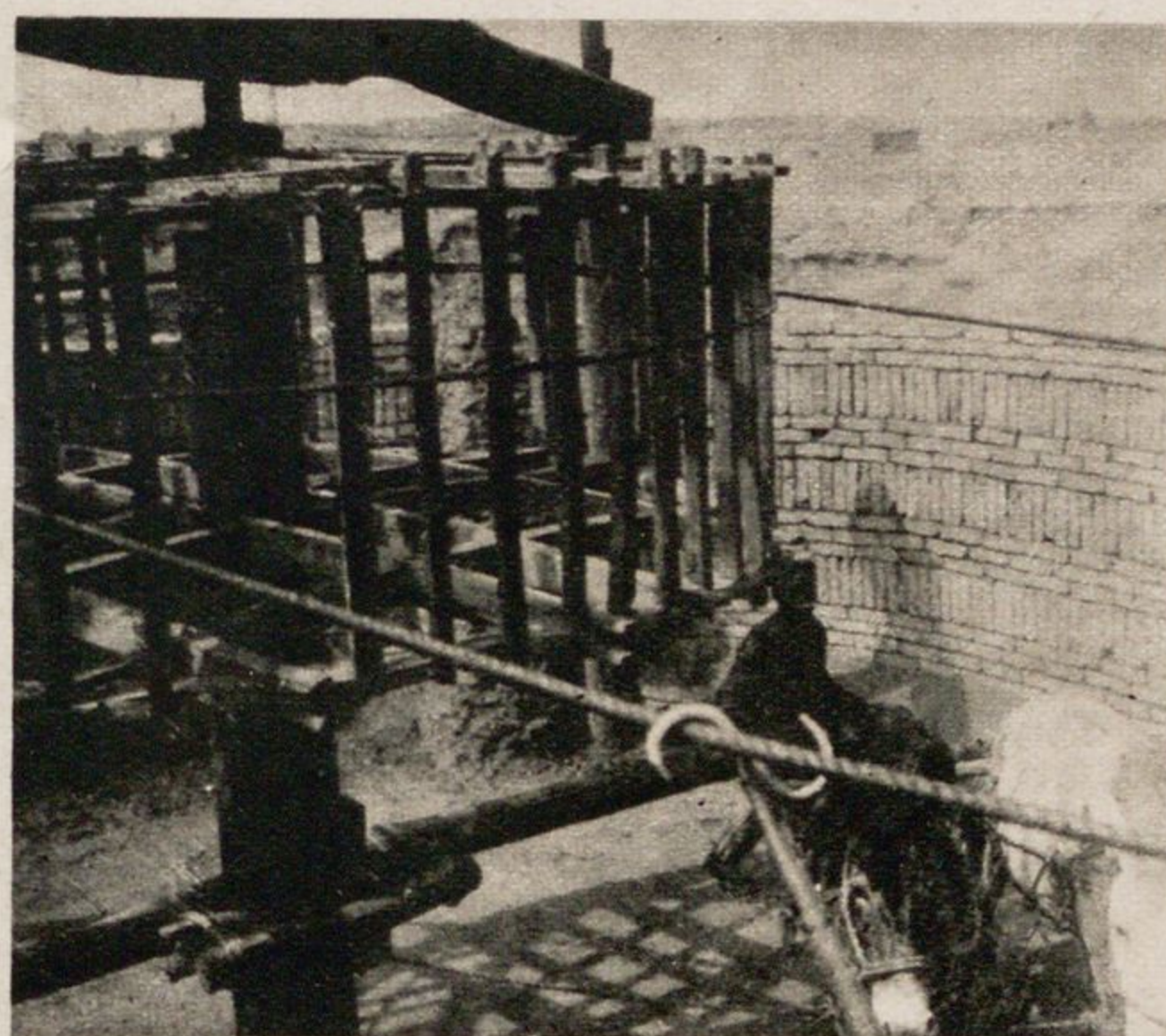
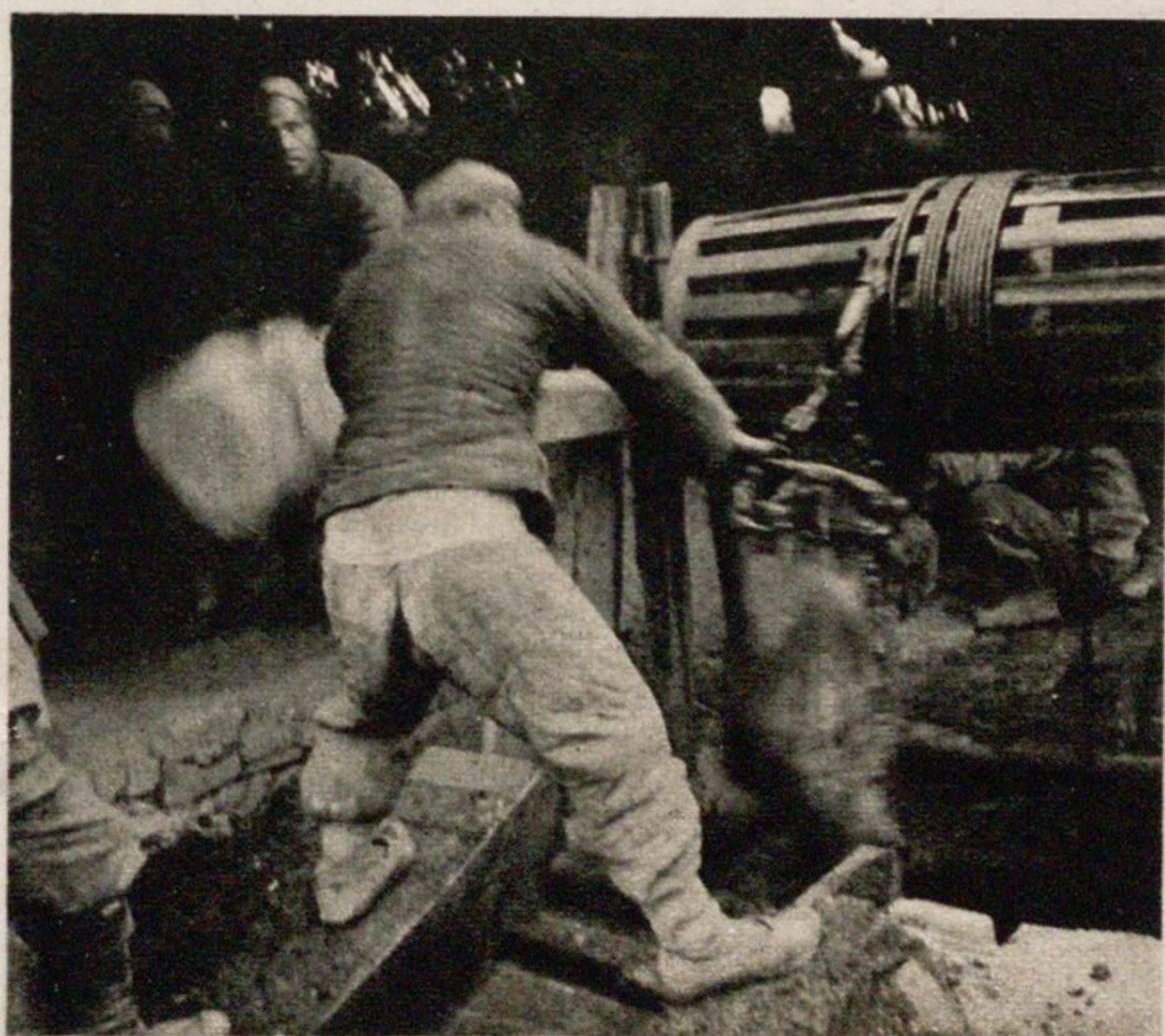
五百羅漢

山門の仁王像

石の浮彫

普賢菩薩

果寺院の規制も大きくなつて、庵が寺と改稱されるに至つた。さうした關係から俗に于公寺とも呼ばれた。于經に次ぎ有名な宦官の魏忠賢が自分の寺としたこともある。清朝になつてからも寺運は依然隆盛であつて、乾隆帝は此處に印度の須彌山の金剛寶座に倣つて五塔の寶座を建てたり、或は杭州の淨慈寺に模して羅漢堂を建てたりした。これらは何れも今日完存し、前者は大理石を彫刻して築いたもので、西直門外の五塔寺と雙璧をなし、後者亦堂々たる五百羅漢の木彫が静かに坐してゐて観る者を驚かせる

民國になつてから孫文の遺骸がしばらく此の寺院に安置されてゐた。有名な國民黨の北伐完成報告祭が行はれたのも此處である。彼の遺骸が南京に遷されてから「總理衣冠塚」が設けられたが實は金剛寶座を利用したのである

昔は舊曆四月初旬御開帳があつたと云ふが、最近は僧侶も殆んど居住してゐないやうに見える。そして一部は療養院に使用されてゐる。然し場所が場所だけに訪ふ人々も相當多く、傍には水泉院と稱する一郭があり、清澄な泉が湧出し、茶店などもある。春から秋、半日の靜閑を樂しむに値ひする所として自他共に許してゐる

北支に見る
原始的採炭法

樹木の根などを利用して、人力による捲揚機

馬力による竪坑捲揚機

支の炭礦には瓦斯の心配がないので、坑内で烟草も吸へば、カンテラも平氣で
ひてゐる、柳の帽子は日本人の發明になる

湧水の排出に生牛の皮で造つた袋を用ひてゐる

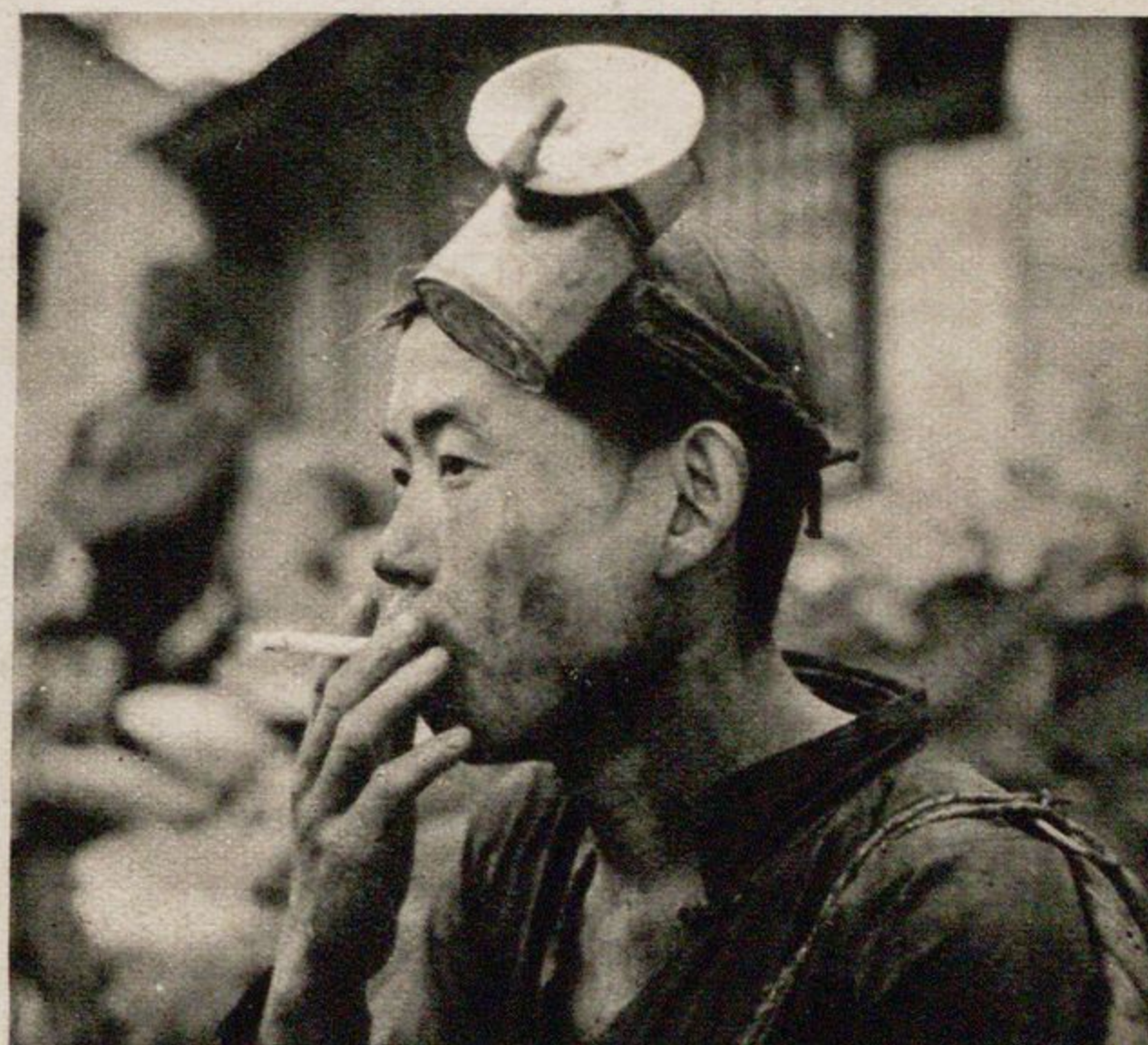
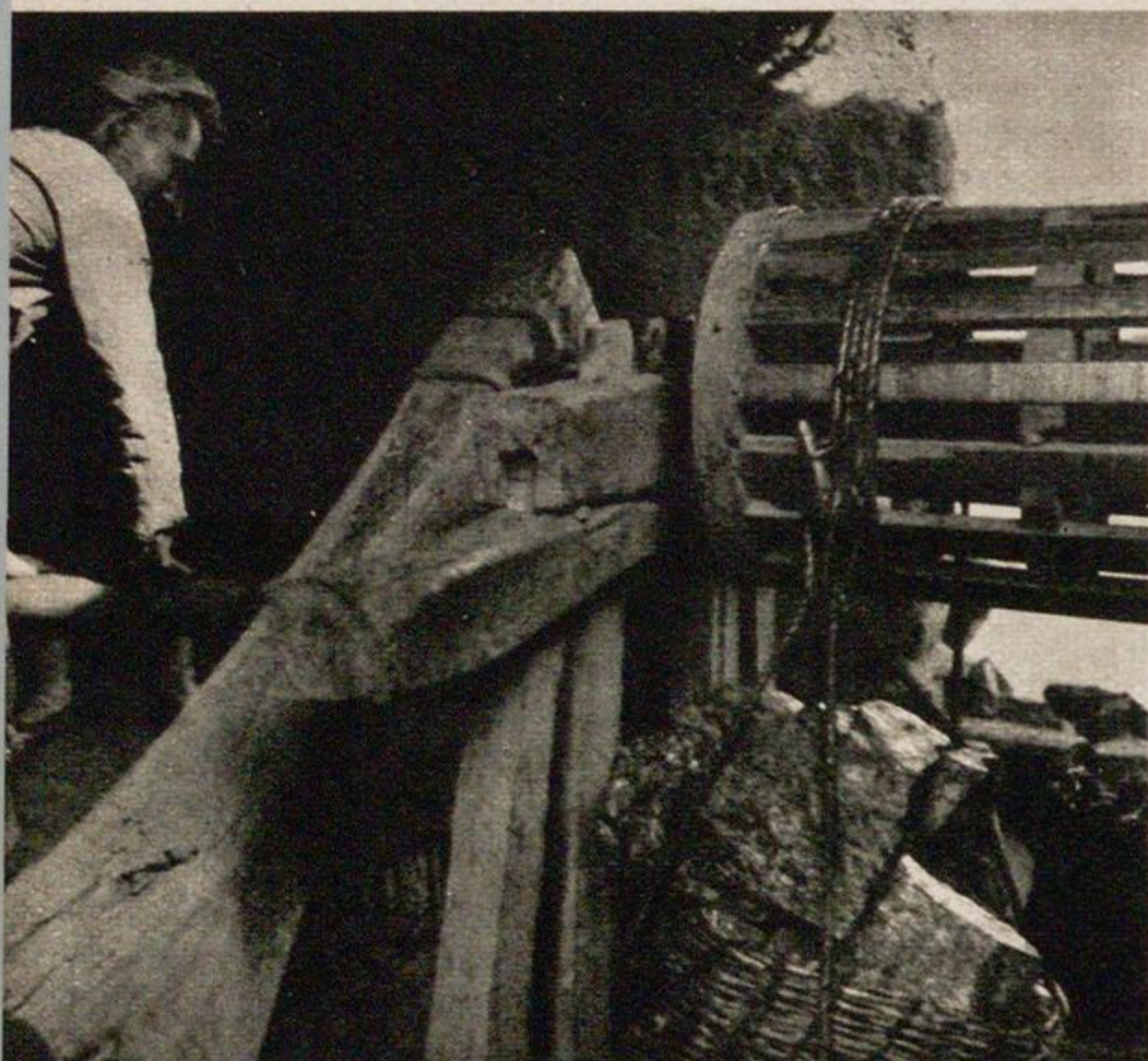
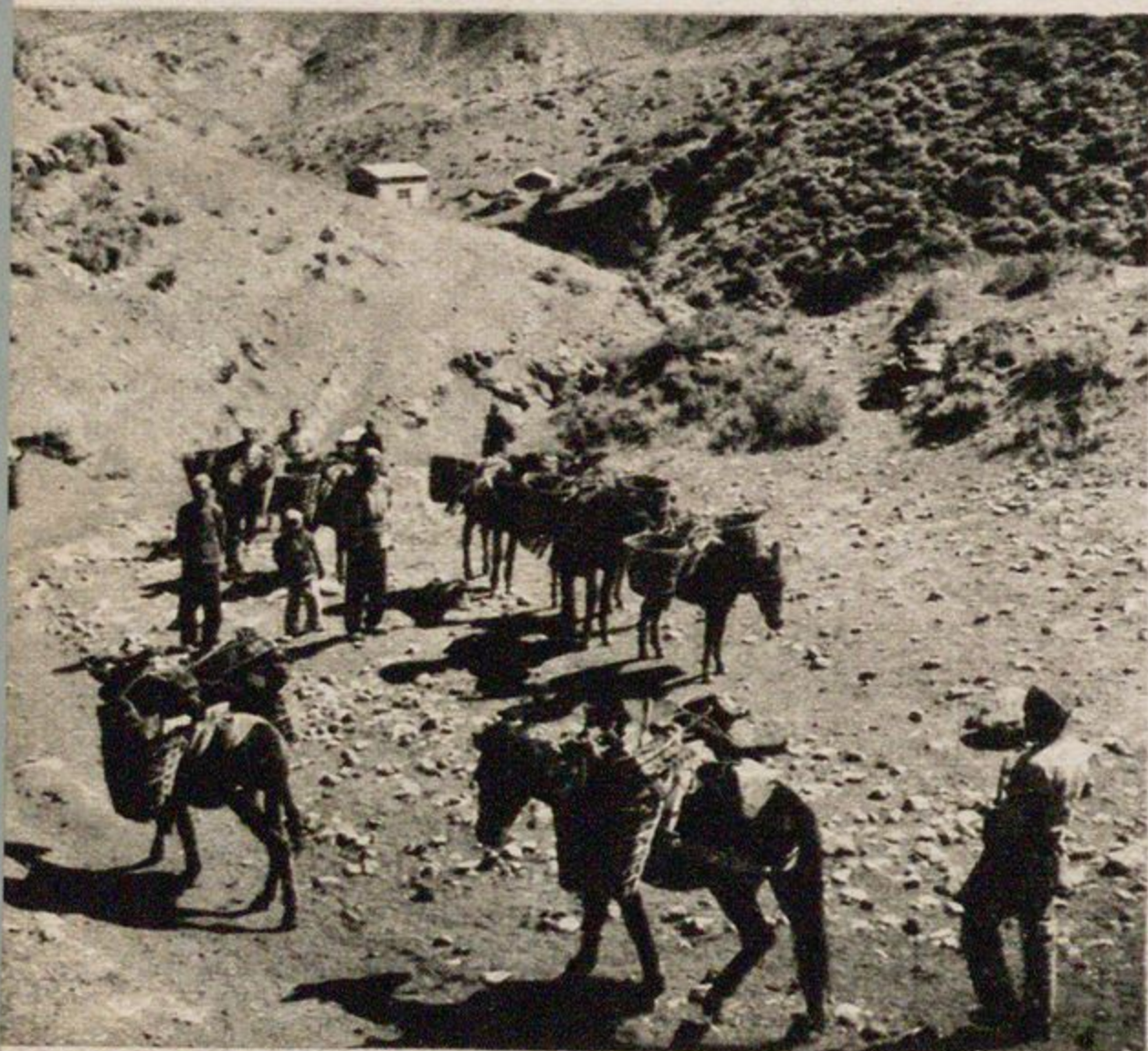
うまく考案した油灯のキャツブライト

かるわざのやうな入

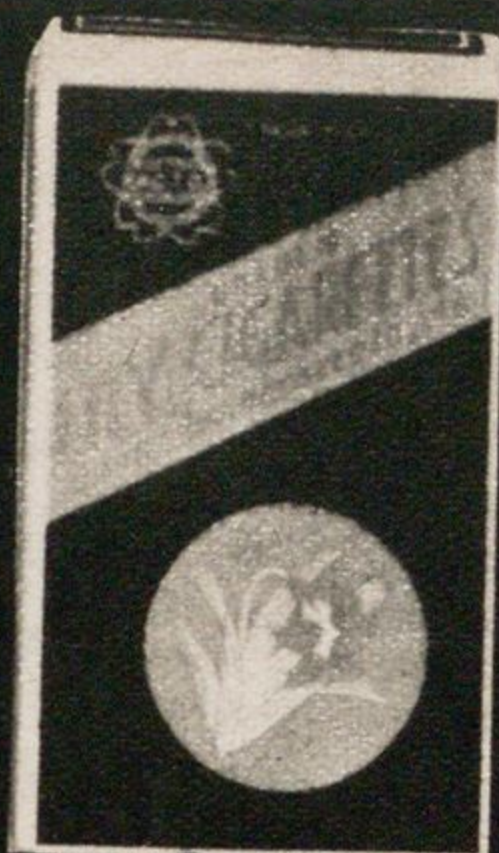
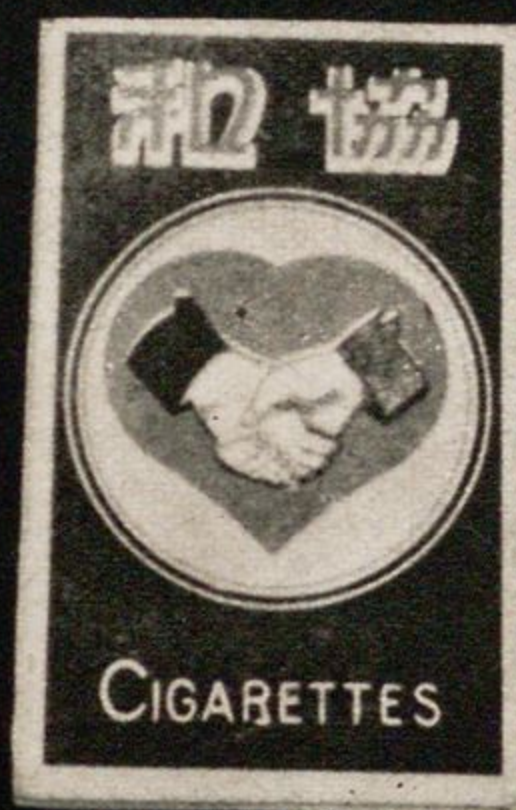
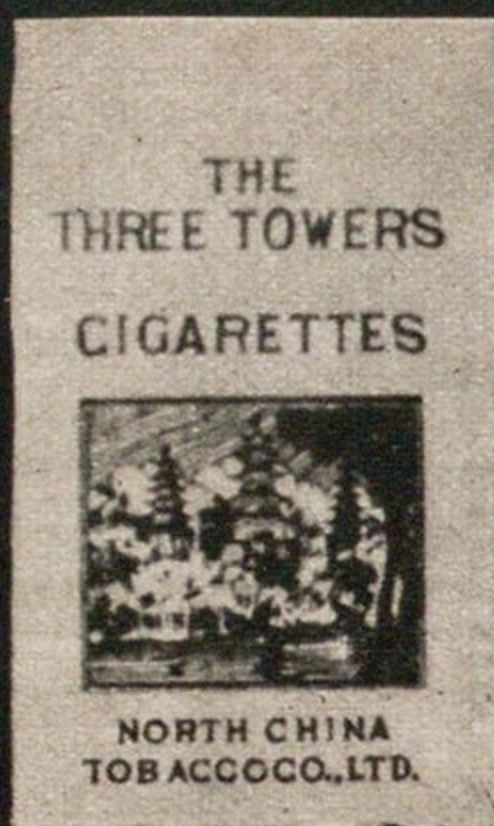
運搬車

こんな大きな塊炭だけを採つて小さいものは放置す

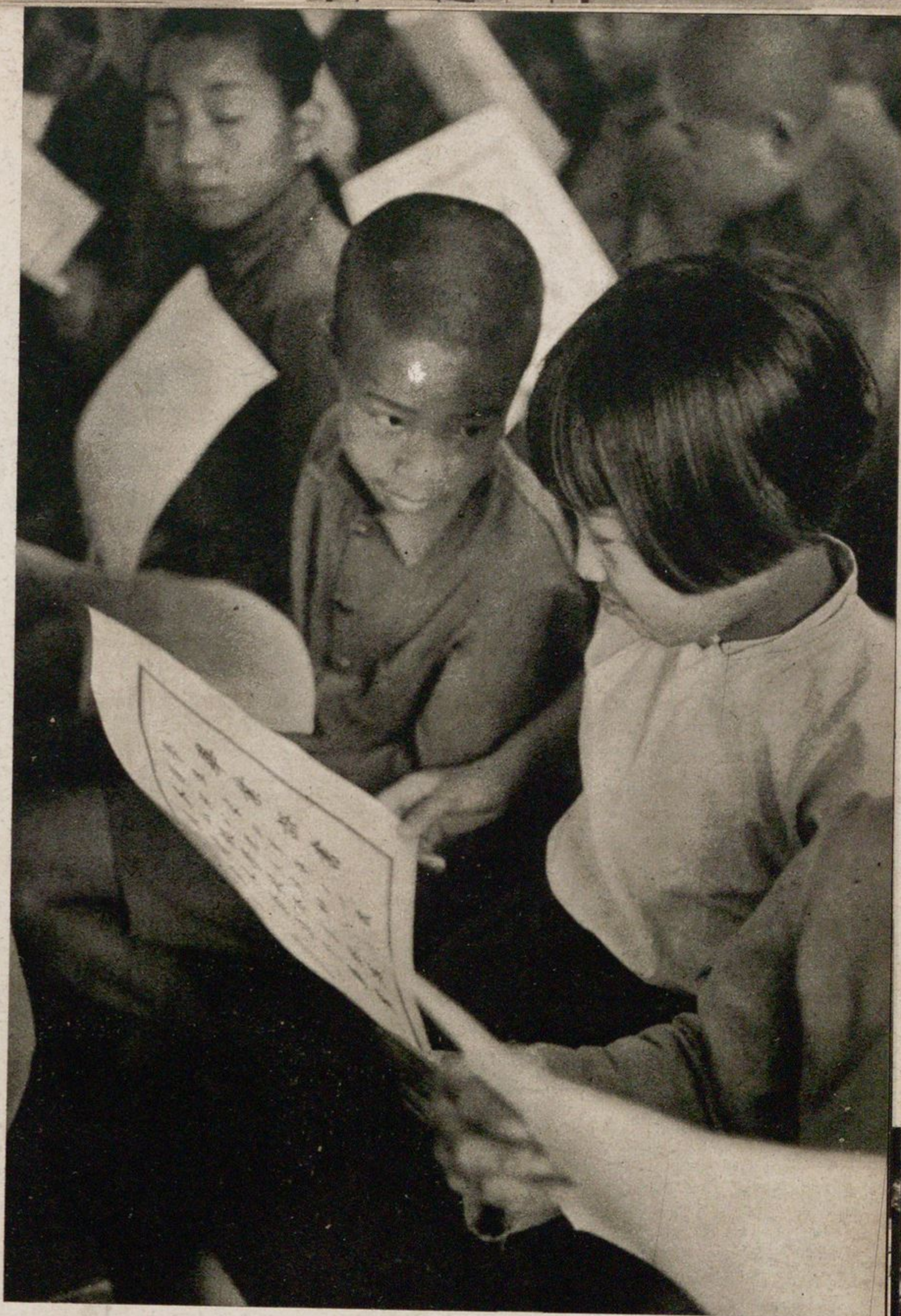
蟻の働作にも似たこの原始的な營みを見よ

掘つた石炭は驢馬に積んで村や街へ……

全支の石炭埋藏量は二千六百億噸である。その五〇%を占むる華北並に蒙疆の炭田は事變後日本の技術を移入し積極的な開發に着手してゐるのであるが無限ともいふべき廣汎な炭田に隈なくその手を伸ばすまでには至つてゐないまだまだ舊來の土法採掘はその大部分を占め、長大な露頭から採掘し易い部分だけを取り去り、あとは放置するといふ誠にもつたいない掘りかたである大東亞の兵站基地として北支、蒙疆の炭礦は日本の卓拔せる技術と優秀なる機械とを以て早急に合理的に開發されねばならない

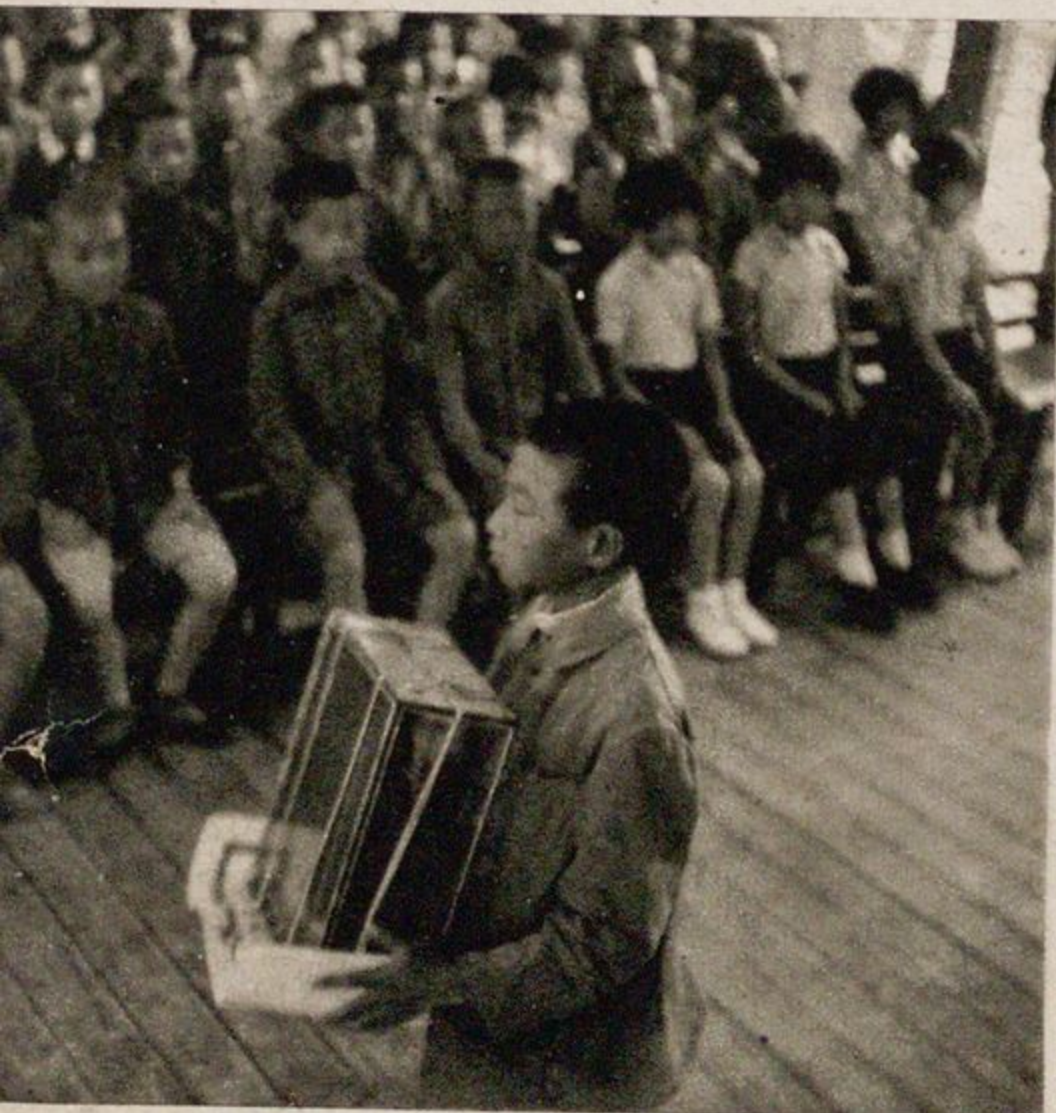
小姐たち

華北交通、昌黎農場に於ける煙草の栽培

大きな世紀の轉換期に際して、北支の煙草も資本的に東亞の自主に向つて巨歩を進めると共に、その牌子（レッテル）も、非東亞的なるものから脫却して、北支人に身近いものが擇ばれるやうになつて來た。實に、それまでの北支の煙草は、北支自體が英米の植民地であつたことを象徴するかの如く、英米等に壟斷せられて、牌子もたとへ前門とか哈達門とかといつたものを用ひたのがあつたにしても、その表裏をつつむ英米臭はかなり顯著なものがあつた。いまこれに代つて登場して來た新東亞的な牌子のいろいろが、果してどれだけ、直ちに北支の大衆に喰入ることができるか、内容（品質）に多分の決定力を持つだけに、遽かに査斷するわけには行かぬが、少くともわれわれは、これが大きな歴史の動きを語る一つの記錄として留めて置かれなければならないものであるといふことは斷言し得る

華北交通

扶輪學校の卒業式

「仰げば尊しわが師の恩」と澄んだ子供の聲が講堂にひびき渡る。幼年時代の思ひ出に胸をしめつけられ日本にゐるかのやうな錯覺を起させる。而しその邊の子供と違つて顔はきりつとしまつてゐるが確に中國の子供である。緊張にふるへる聲で答辭が日本語と支那語で讀まれる。「螢の光」が歌はれ、父兄席の青い支那服をきた親たちを涙ぐませる

方法は他と根本的に趣を異にしてゐる即ち偏智教育を排して實地教育を旨とし、排日に歪められた心を正し新民精神を吹き込む。普通の公民教育のほか若干の交通の基礎教育が施され新中國建設の明日に挺身せんとする有用の材を作らうとするのである

各學校には日本人の副校長と數名の日本人教員が配屬されてゐて直接指導に當り精神訓練と日本語教育に特に力を

扶輪學校の卒業式である

華北交通は十二萬の社員を擁してゐるがその中八萬人は中國人である。その子弟を收容する學校が扶輪學校である華北交通は北支の鐵道と自動車と水運の單なる經營會社でなく開拓鐵道の使命に基いて大陸の土地と人を開拓し啓發しなくてはならぬ。扶輪學校もこの理想の表れに外ならない。隨つて教育

注いでゐる

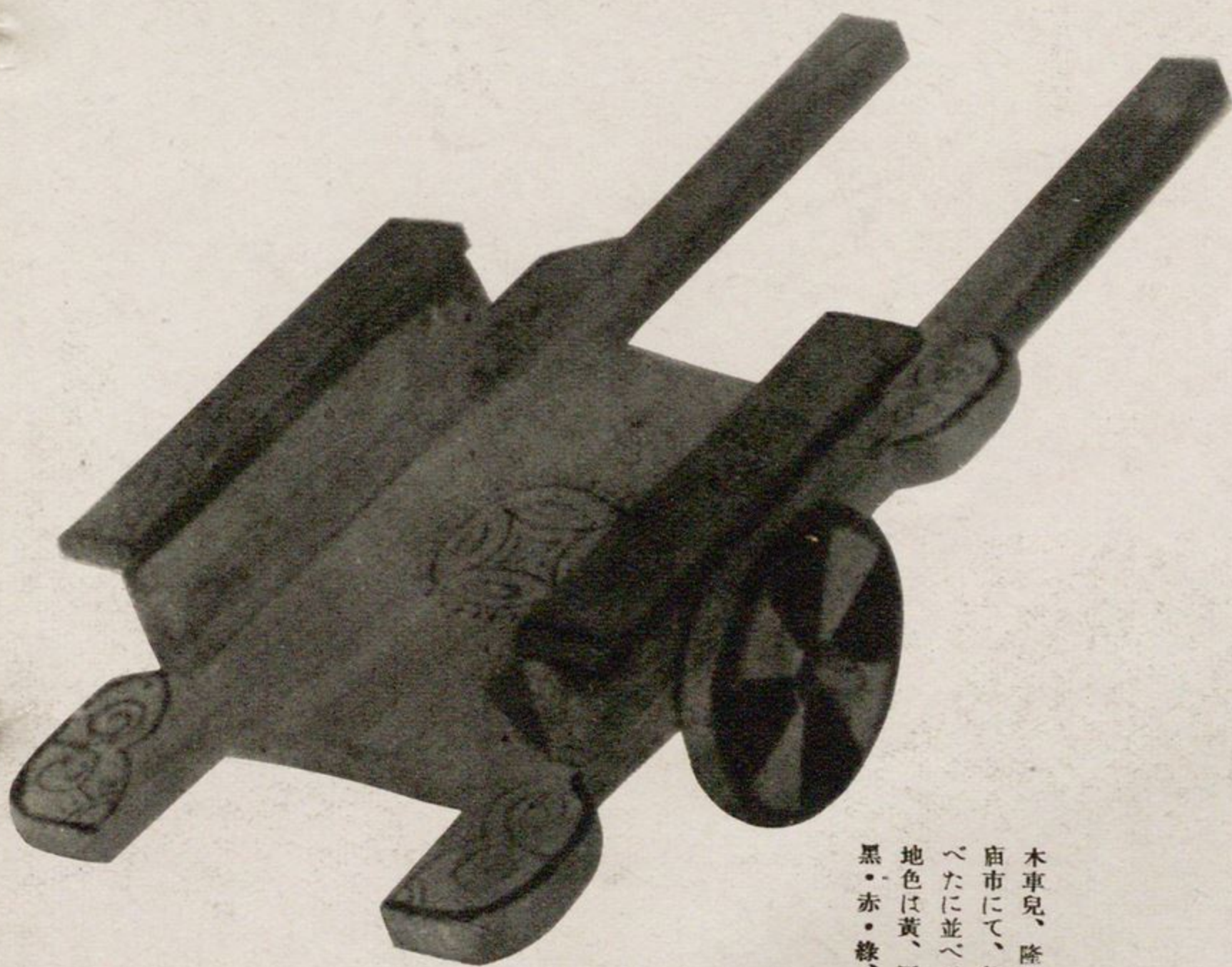
この教育の精神と方法が子供の顔つきを一變させるのである

現在開校數は三十校、一萬人の子弟を擁してゐる。かくも多數の支那の少國民が華北交通の手によつて親日教育を受けて成長してゐることは誠に注目されてよい

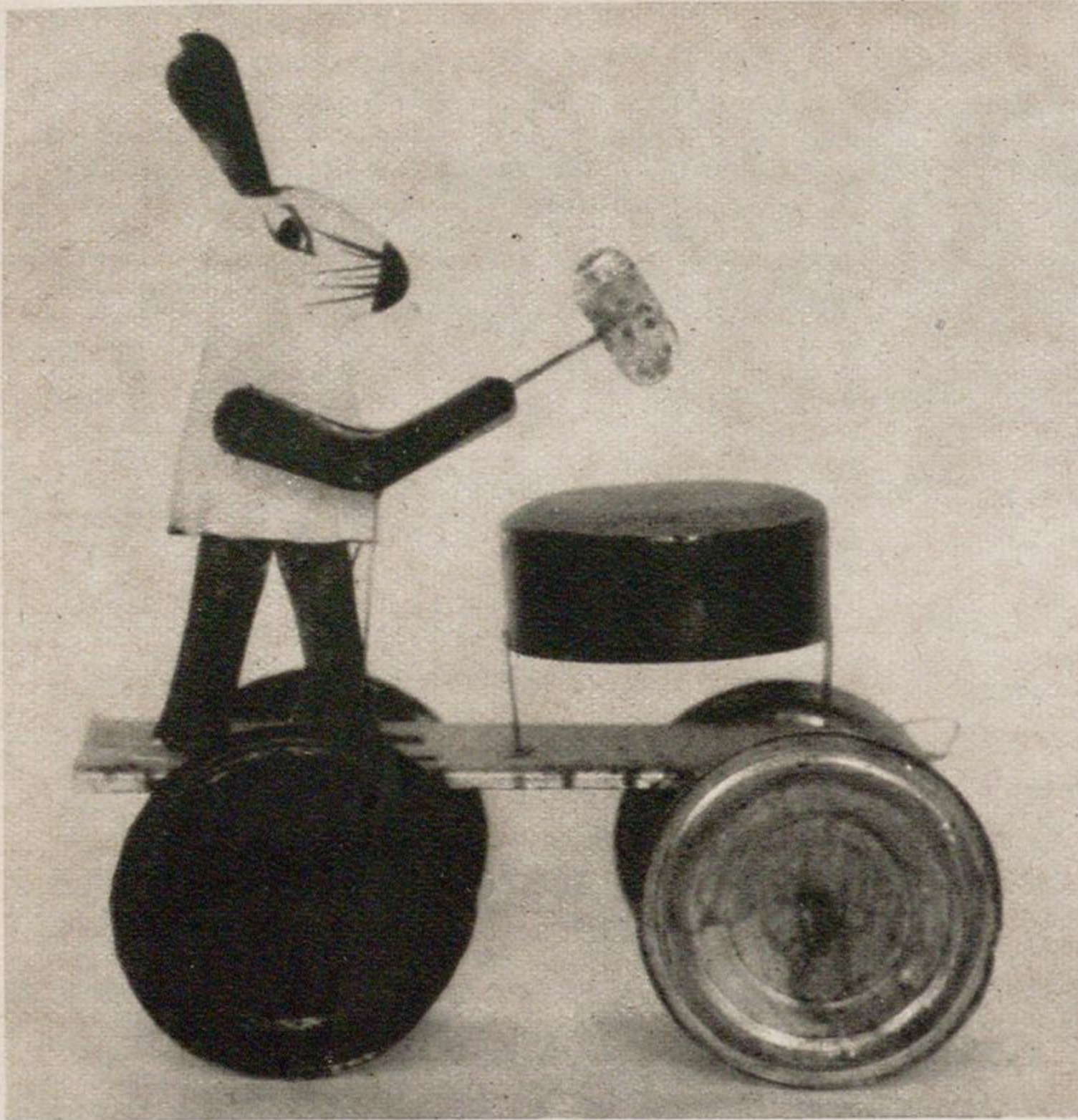
北京の玩具

悟空と八戒、皆さん西遊記でおなじみのもの、王府井にて爺が藁束の筒に挿して擔いでゐた。ボール紙製、肩を貫く細竹の先を捻ると武器を振り廻す仕組、五寸五分

北京でも貧民階級の子供は殆んど玩具らしい玩具を持ちません。まづ中產階級のところで飴細工の玩具とか、型押模樣のお菓子を買つて食べるとか、廟會や正月などのお祭に四、五錢、十錢二十錢程度の玩具を買つて貰ふやうな有樣です。と云つて然らば北京は玩具が少いかと云ふと、隨分澤山いろいろなものがあります。それに此頃は東安市場に行つてみると、日本玩具專門の屋臺店も出來てゐるのです

ここに掲げた寫眞は澤山な北京の玩具の中から鄕土の匂の強く、繪畫的にも面白さうなものを選んでみました。東安市場あたりにみる、いやにこましやくれた新興玩具と一緒に眺めてごらんなさい。どちらが先に飽が來るか？商賣氣の方が先に立つたやうなものは藝術に大切なたのしみがないので必ずどことなく卑しいものです

木車兒、隆福寺の廟市にて、爺が地べたに並べてゐた。地色は黃、圖案は黑・赤・綠、一尺

布老虎、地色は黄、圖案は赤・黒・緑、大小あり、正月の東嶽廟市にて

モダーン兎兒爺、仲秋節前、前門外大街にて入手、廢物利用のブリキ細工、前部に紐をつけて曳けば兎が鼓を叩く仕組、六寸大

布老虎、二つ共隆福寺の廟市の屋臺店にて入手
右は黄地、左は深紅地、各四寸大

布老虎と布狗兒、二つ共隆福寺にて、屑布利用のもの、右は紫紺地、左は鼠色、各三寸五分大

三

一

二

今も燒く北支の民窯

吉田璋也

華北に住む日本人が北支の民窯からその生活の中に活かして用ひられる品々を續けて拾ひあげてみよう

一、小釉盆子　北京東郊產、口幅六寸五分

唐三彩風の物である。黃釉が懸つてゐる上に綠に點々と綠釉が流れてゐる。膨れた豐な形である。高臺はない。これ位の大きさの物は臺所道具として色々の料理を作る材料の入物に使つてゐる。これは大小色々あり色彩も綠釉だけの物もある。白繪土を塗つてその上に釉藥を懸けた物は色彩が美しい。產地も北支の平地なら、彼地是地何處でも燒いてゐる。用途は大きな物は洗濯の盥に麵粉を捏ねる鉢に、大きさによつては婦人の夜の便器にも用ひてゐる。美しい鉢であるから日本人はこれを何に使ふか、用途は廣いであらう。綠色の物に赤いトマトを盛つた場合など綺麗なものである

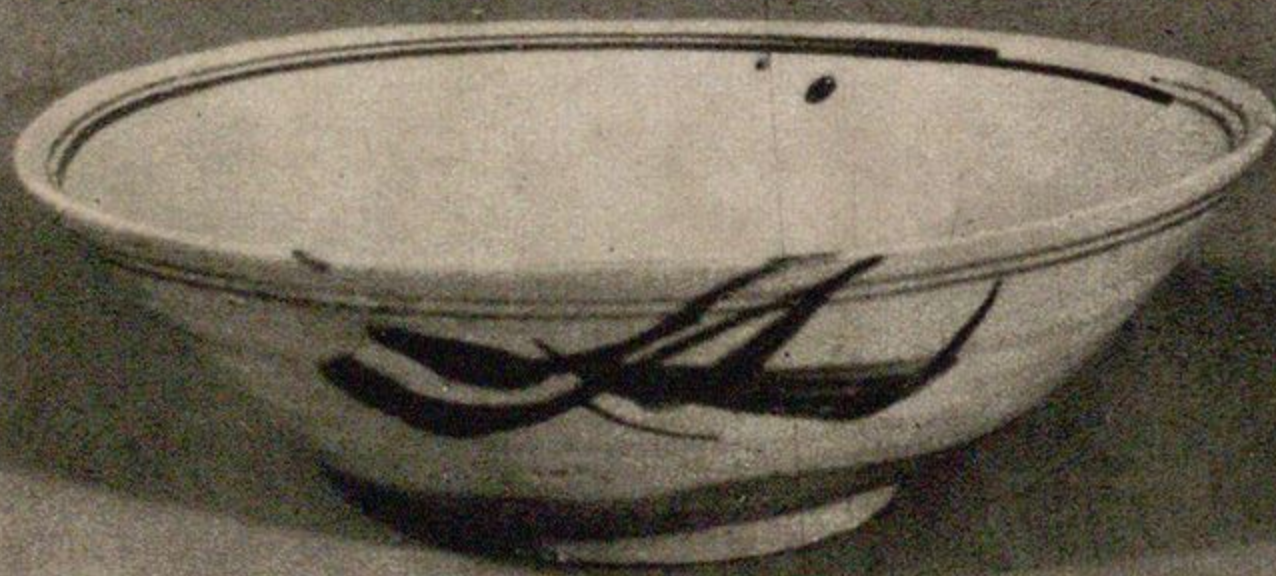
二、大磁盤　河北石家莊附近の產、直徑一尺

唐三彩風の大皿である。內面は黃釉で外側の綠釉が緣を越えて流れてゐる。無造作の形で高臺もない。臺所や街の屋臺店で料理を盛つてゐるのを見る。果物を盛つても、燒餅や油炸鬼や饅頭を入れてもなかなかいい

三、扁酒壺　山東博山の產、高さ一尺

柿釉の美しい扁壺である。浮きだした福の字もいい。酒器であらうが、水の飲めない北支では冷開水（湧かしざまし）を貯へて置くにも使へて便利である

四、火罐子　河北磁州彭城鎭產、高さ一寸五分

黑釉の胴は張り一寸手に取つても見たい小壺である。日本人は誰もこれが吸ひ玉とは思ふまい。マツチを擦つては土の中に投げ込み病

のある所に吸ひつかせる鬱血療法の吸ひ玉でもある。だが楊子入れにでもしたい形である

五、小飯碗　河南李河の產、口幅三寸五分
白掛けした厚手の小鉢である。お茶人好みの釉の垂れに味のいい物もある

六、大碗　山西介休の產、口幅五寸八分
白掛けした上に鐵で鋭い筆致で模樣が描かれてゐる。菓子鉢にもなると思ふがこちらではうどん、粥、その他スープの鉢に用ひてゐる

七、飯碗　山東博山の產、口幅四寸
白掛けの上に黑味がかつたコバルトで靜な線と模樣が描いてある。飯碗であるが何にでも使へる美しい鉢である

八、平碗　山西楡次の產、口幅五寸
白掛けの上に簡單な鐵繪がある。菜を盛る碗である。これもお茶人好みの物で愛用出來る食器である

四月の花

北京はまた、花の名所ともいへる。春四五月の頃は名花珍花が咲き亂れる。その中から四月に開花する花を拾つてみると、

寫眞1 秧梅＝楡葉梅の園藝品種

2 牡丹＝支那原産にして三十餘種あり、本號の表紙も其一つ

3 杏花＝原産地はシベリヤ地方から中國北部及び西アジア

4 丁香＝ライラック、北京の公園や院子につつましく咲いてゐる

その他、紫玉蘭（支那原産むらさきの木蓮）連翹、海棠、太平花、月季など

1

2

3

4

—石太線微水—

新生國策イリヂュウム
白金ペン付

書きよく
體裁優美
構造堅牢

流線型

クラウン万年筆

—蒙古・草原を行く牛車隊—

大阪・東京・小倉　株式會社　澤井商店

内容

第四巻　四月號

グラフ

牡丹……表紙

特輯　愛路工作

愛護村……1

通州日輪道場……3

愛路列車……5

愛路自動車……7

愛路厚生船……9

愛路少年隊・少女隊……11

愛路惠民研究所……13

春水……15

碧雲寺……17

北支に見る原始的採炭方法……19

小姐たち……21

たばこ……23

扶輪學校卒業式……25

北京の玩具……27

今も燒く北支の民窯……29

四月の花……31

よみもの

春を飾る北京の花……35

項羽と虞美人……40

『啼笑因緣』のこと……42

北支の鳴り物(二)……44

可園雜記……48

支那關係圖書紹介(7)……49

春を飾る北京の花

岩田重夫

四月ともなれば、零下十餘度の嚴冬はいつしか過ぎ去り、麗らかな春日となると共に、待ちあぐんだ大自然の草木は柔らかな春光を受けて、先を競つて北京の春を飾るのである。

花に包まれた古都、北京は花毛氈の中にあるが如く、又花の香は北京城內にくまなく漂ふのである。そして北京の花は大陸ならでは味ふことの出來ぬ色々の種類がある。

今、そのうち、數種を取上げてみよう。(編者記・本號グラフ面「四月の花」參照)

迎春花

先づ、まつ先に春を語る花はワウバイ(Jasuminum nudiflorum Lindl.)である。公園など、各所に細長い枝がやや蔓狀に伸び、下垂した枝一面に高坏狀の黃色の花が咲き誇る樣は冬の氣去らぬ早春になくてならぬ花である。

北京ではこれを春を迎へる花として二、三月頃より溫室で栽培し、室內を飾るものにしてゐる。

ワウバイは、元來中國の原產で、日本へは觀賞用として輸入されたものである。(題字上の寫眞は迎春花)

杏花

日本の早春を梅花が飾るやうに、北京の早春を飾るのはアンズである。元來、アンズは中國の原產で、割合北方に適する木であつて、北京の杏花は又格別に美麗である。

華北では杏(Prunus Armenica L.)と、アンズ、一名カラモモ(漢名山杏)(Prunus Armenica, var. Ansu Maxim)とが普通に植ゑられてゐる。特に前者の果實は大形、肉厚で、初夏の市場を賑はすあの美味の杏である。

桃花

四月の初め、北海、萬壽山、西山等を訪れると、野山一面を薄桃色に染めてゐるのは桃花である。

この種はサンタウ(山桃)(Prunus Davidiana Franch.)で、中國の河南、河北、山西、陝西省等に野生してゐる。此の山桃は、果實が小さく、毛が多く而も肉薄で食用にはならない。核を子供の玩具や念珠に用ひてゐる。

農家では、幼樹を桃や李等、即ち梅屬の重要な接木砧木としてゐる。

山桃の變種に花の色の白い白花山桃(Prunus Davidiana Franch. var. alba Bean.)がある。

我々が普通食用にしてゐる水蜜桃や扁桃は、謂ゆるモモ(桃)(Prunus Percica Batsch.)の改良種である。

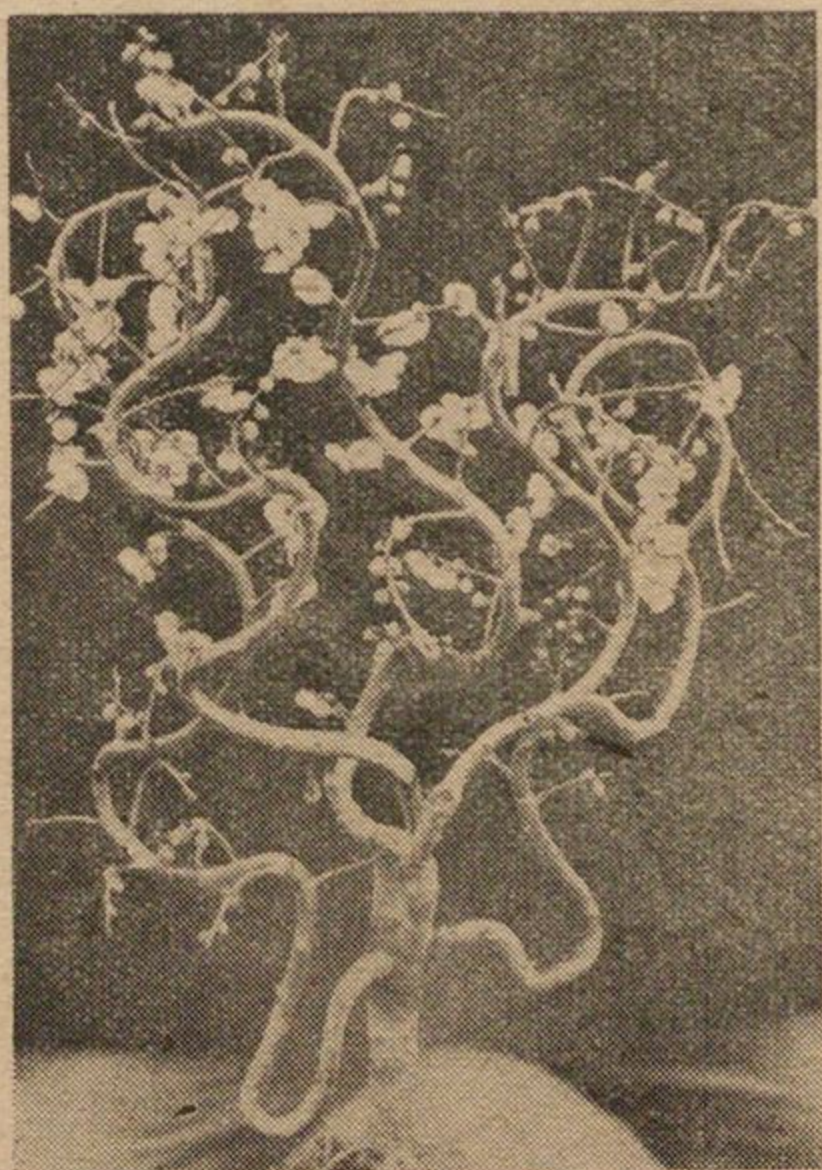
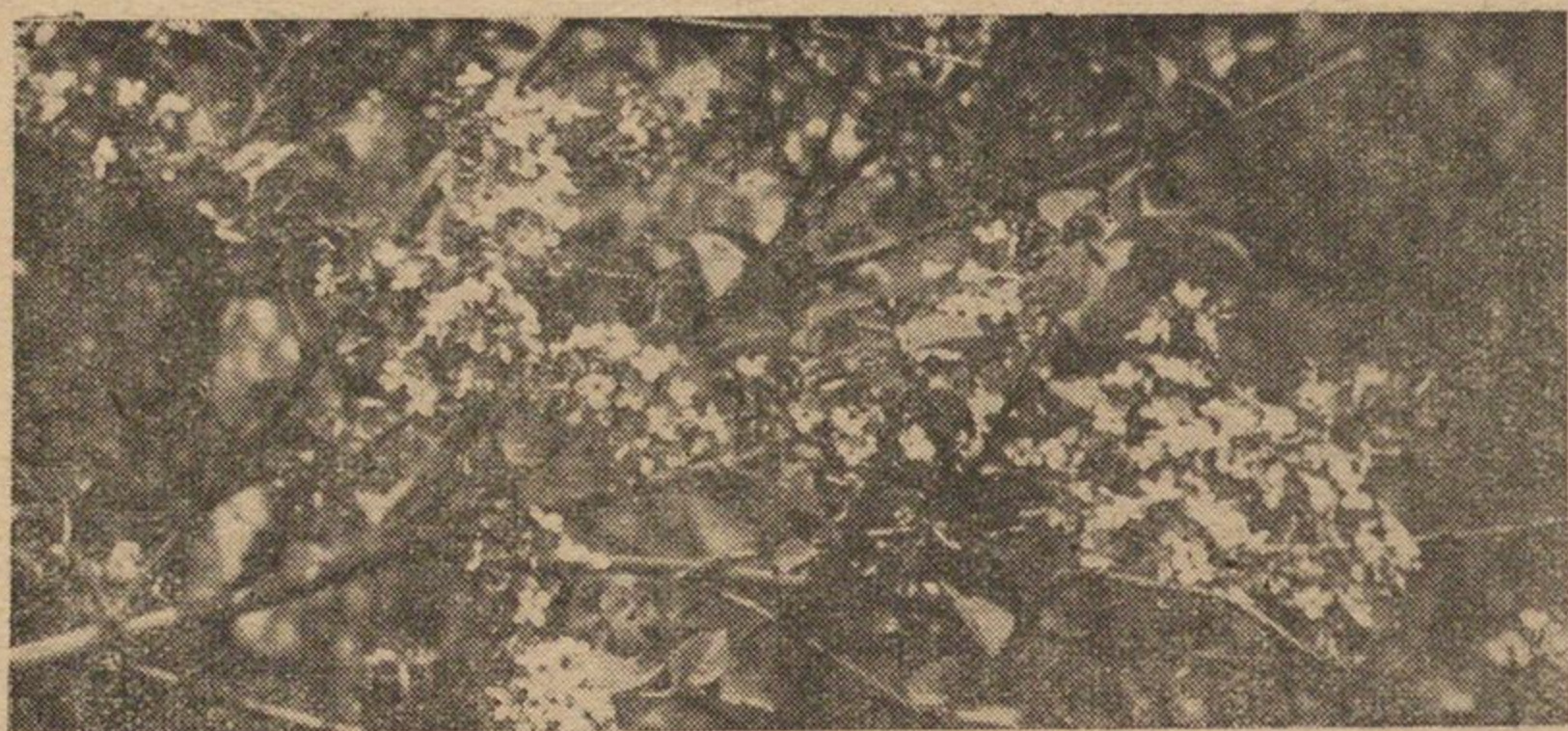
モモは、南滿、河北、山東、甘肅、浙江、江蘇、湖北、四川、雲南、廣東省等に野生し、日本へは餘程古い時代に渡來したのではないかと思ふ。

北京の花屋には、白または桃色の大きな八重の桃花が支那獨特の枝作りにして飾られてゐるのを見かけるが、あの桃は果實の出來ない、花を觀賞するだけの白碧桃(Prunus Percica Sieb. et Zucc. var. alba-Plena Hort.)である。

大梅花

ウメ(Prunus mume Sieb et Zucc.)は、元來中國原產で、中國の國花にもなつてゐる。

南滿、江蘇、甘肅、湖北、四川、浙

支那流の枝作りをした梅の盆栽

江、廣東、河北等の各省に分布し、北京では中央公園等に露地栽培してゐるが、冬季の寒冷枯死を防止するため、樹全體を土の家を作り保護してゐる。
　隆福寺等の花店では、枝をぐるぐる巻いて支那獨特の盆栽作りをしてゐるが、こんなところにも國民性が如實に

紫丁香

現はれてゐるのである。
　中央公園の大梅花は、四月初旬に開花する。

玉　蘭

　玉蘭はモクレンの類の總稱で、北京に栽培されてゐるものは、萬壽山に見られるハクモクレン（玉蘭、木蘭、木蓮）（Magnolia liliflora Desrouss.）であつて、花は白色で山を壓する芳香がある。いま一種は赤紫色の花を開くシユモクレン、一名モクレンゲ（辛夷、木筆）（Magnolia Dnudata Desrouss.）であるが、兩者共に觀賞樹として愛されてゐる。夏季、東安市場などの花屋では茉莉花と共に髮や胸部の飾り物として賣り出してゐるあの香りの良い玉蘭は前二者とは全く別種である。

櫻　花

　日本人は、櫻の花を眺めないと春を味はつた氣持がしないが、北京では櫻の花で春を味ふことは困難な事で、事變後、櫻の苗木が多數移植されて、萬壽山、中央公園や中南海などでは、見ることが出來るやうになつた。
　何しろ、氣候風土の異る北京で、內地と同樣な春を味はふと云ふのは元元無理ではあつたが、かうした努力によつて段々櫻花爛漫の北京にもなつて行けるのではないかと思つてゐる。
　さて、中國には元々櫻はなかつたのであらうか？　華北にはシナミザクラ（櫻花、含桃、荊桃）（Prunus pseudocerasus L.）が栽培され、初夏のサクランボは、此の櫻の實なのである。
　倘、オクヤマザクラ、一名ケヤマザクラ（替桃、毛山櫻）（Prunus Serulata. var. pubescens Wils.）が分布してゐるのである。
　南方には福建山櫻（Prunus Campanulata Maxim.）が分布してゐる。

丁　香

　四月中旬より下旬にかけて、北京の春の王座を占めるものは、丁香であらう。
　北京の家々には必ず植ゑられ、中でも中央公園の丁香林、法源寺の香雪林は、世界的の美觀であると思ふ。
　我々は日夜、リラの呼稱で詩に歌に或は花瓶の花として愛好してゐるのである。北京で最も普通なのは紫色花のオニハシドヒ（紫丁香）（Syringa oblata L.）と、純白花のシロバナハシドヒ（白丁香）（Syringa oblata L. var. offinis Lingelsh.）の二種であり、鉢栽培には、小形桃色花の南丁香がある。

壽　丹

　レンゲウ、一名レンゲウウツギ（萬壽丹、壽丹）（Forsythia Suspenna Vahl.）で、四月中旬、黃色四瓣花が葉に先立つて枝一面に開花する。
　北京では中央公園、北海公園に多數植ゑられてゐる。

壽丹（レンゲウ）

紫荊

中國産の植物で、日本では古來よりハナヅワウ（紫荊）（Cercis chinensis Bge.）の呼稱で觀賞用樹とされてゐる。

濃紫色の大豆の花に似た蝶形花が、葉もない樹枝の葉腋に、多數叢生してゐるのは實に見事な眺めてある。

北京では、植物園、中央公園等、各地に栽培され、尙ほ河北、河南、山東、陝西、甘肅、江蘇、湖北、四川、貴州、廣東省等に廣く分布してゐる。

海棠

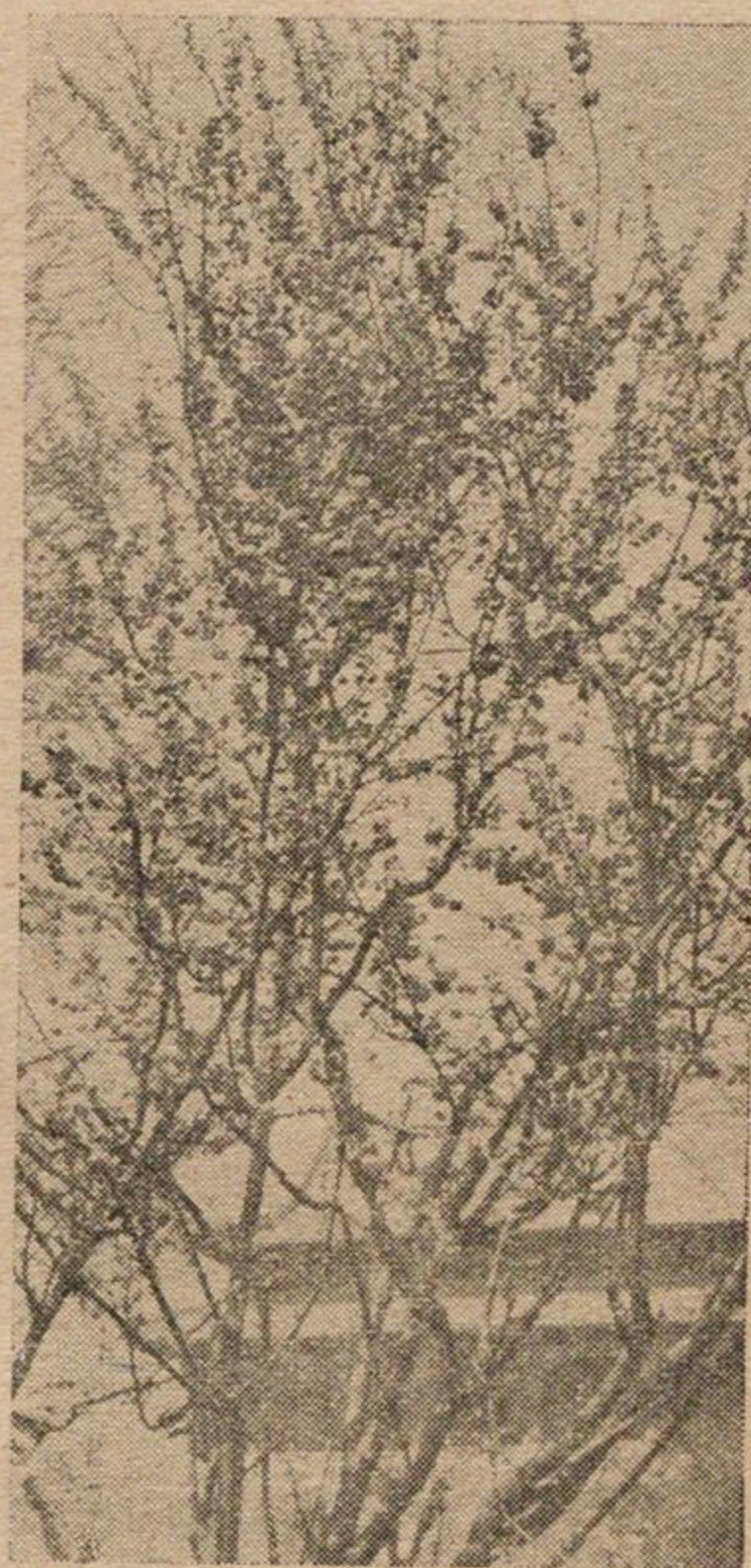
四月中旬から下旬にかけて、白色大形の花が美しく咲き誇るのを北京に住む人達は承知の筈である。普通カイダウと呼ばれてゐるが、日本で觀賞用にしてゐる花の赤いカイダウとは異り、實はミカイダウ（海棠、海紅、赤棠）（Malus spectabilis Borkh.）である。北京の院子や、公園には必ず植ゑられてゐるが、中央公園や植物園の海棠林は最も有名である。

海棠はその品種多くて果實が深紅色のものは紅海棠、淡紅色は白海棠、帶紫色なれば紫海棠等と云はれてゐる。海棠は、その花を愛されると共に、その果實は生食し、糖胡盧の材料等としても重要な産物である。

紫荊

楡葉梅

楡葉梅

葉が楡の葉に似てるので、ユエフバイ（楡葉梅）（Prunus triloba Lindle.）と呼ばれ、花はニハザクラに類似して淡紅色で頗る美麗である。尙ほ初夏、梅の實に似た小形な實が出來る。

各所の院子、公園には最も普通な花木である。

山蘭芝

前述、楡葉梅の園藝品種にサンランチ、一名ランチ（新柄）（山蘭芝、欄支）がある。楡葉梅に比して花徑小さく、重複瓣で、花色は更に濃紅色の上に枝條又帶紅色である。

山蘭芝は國立圖書館、中央公園等に植ゑられ、その開花期に花を訪ねる人も多い。

太平花

ウツギに似て、白色花を開く、太平花（Philadelphus Pekinensis Rup.）がある。四月下旬より初夏にかけて開

花する。北京では、珍木として紫禁城に唯一本あるきりである。最近、萬壽山等へも此所より株分けされて栽培されてゐる。

文冠果

ムクロジ科の一屬一種植物で、北支那特産である。ブンクワンクワ（Xanthoceras Sorbifolia Buye）は、世界的に有名な珍木で、四月下旬から五月上旬にかけて淡紅色や白色の美事な花が枝もたわわに咲き誇る様は、櫻花爛漫たる光景にも似通つてゐる。

ブンクワンクワは北京市中でも餘り見受けぬ珍木で、殊に西直門外極樂寺のものは有名である。私は日本に於ける櫻の様に北京にこの文冠果を多數栽培されることを希望する一人である。

文冠果

藤羅

北京では、フヂのことを藤羅といつて、內地の藤に似てゐるが花穗が更に長く、花形大きく、色も濃紅紫色である點などで、矢張り、異種のシナフヂ（Wistaria sinensis Sweet.）なのである。四月下旬より五月初旬にかけて各地の庭や公園に、殊に中央公園の柏にまつはつて咲き香る景觀は、北京ならでは味へないものであらう。

黄刺梅

イバラの一種で、キバナハマナス（Rosa Xanthiana Lindle）と呼ばれ樹枝一面、イバラの花に似た黄色の花が咲くのである。これも北京の春を飾る代表的な花と云ふことが出來る。（編者記・本誌グラフ面では度々、黄バラとして紹介したものである）

牡丹

中國の代表的な花として世界的に有名なボタン（Paeonia suffuruticosa Andr.）は、北京の西方、甘肅、陝西省等に自生してゐる。

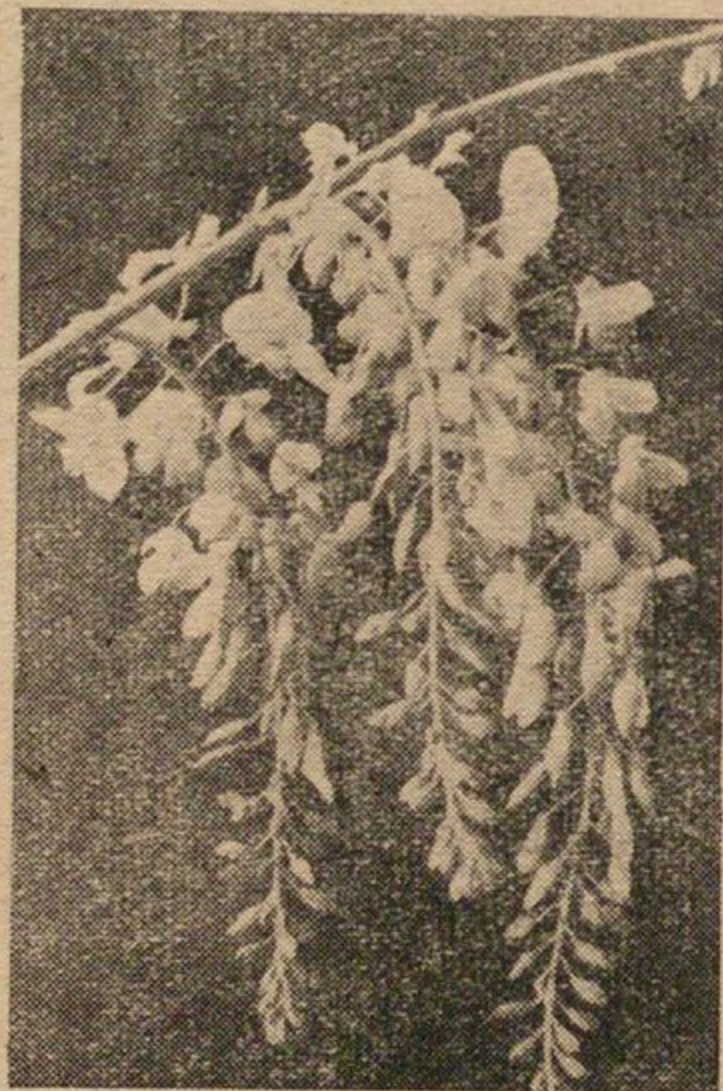
ボタンの栽培は、氣候風土の關係上北京が最も適してゐるやうである。五月初旬、北京の何所を訪れてもボタンの香が漂つてゐる。中でも中央公園には三十餘品種の花弁の色や形の異る珍品があり、一寸何處にも類例がない。

芍藥

ボタンに良く似た花にシヤクヤク（Poeonia arubiflora Pallas）がある。

牡丹より少しおくれて咲く。北京の芍藥は、純白色が多い。開花の頃ともなれば、北京もそろそろ初夏である。

珍珠梅

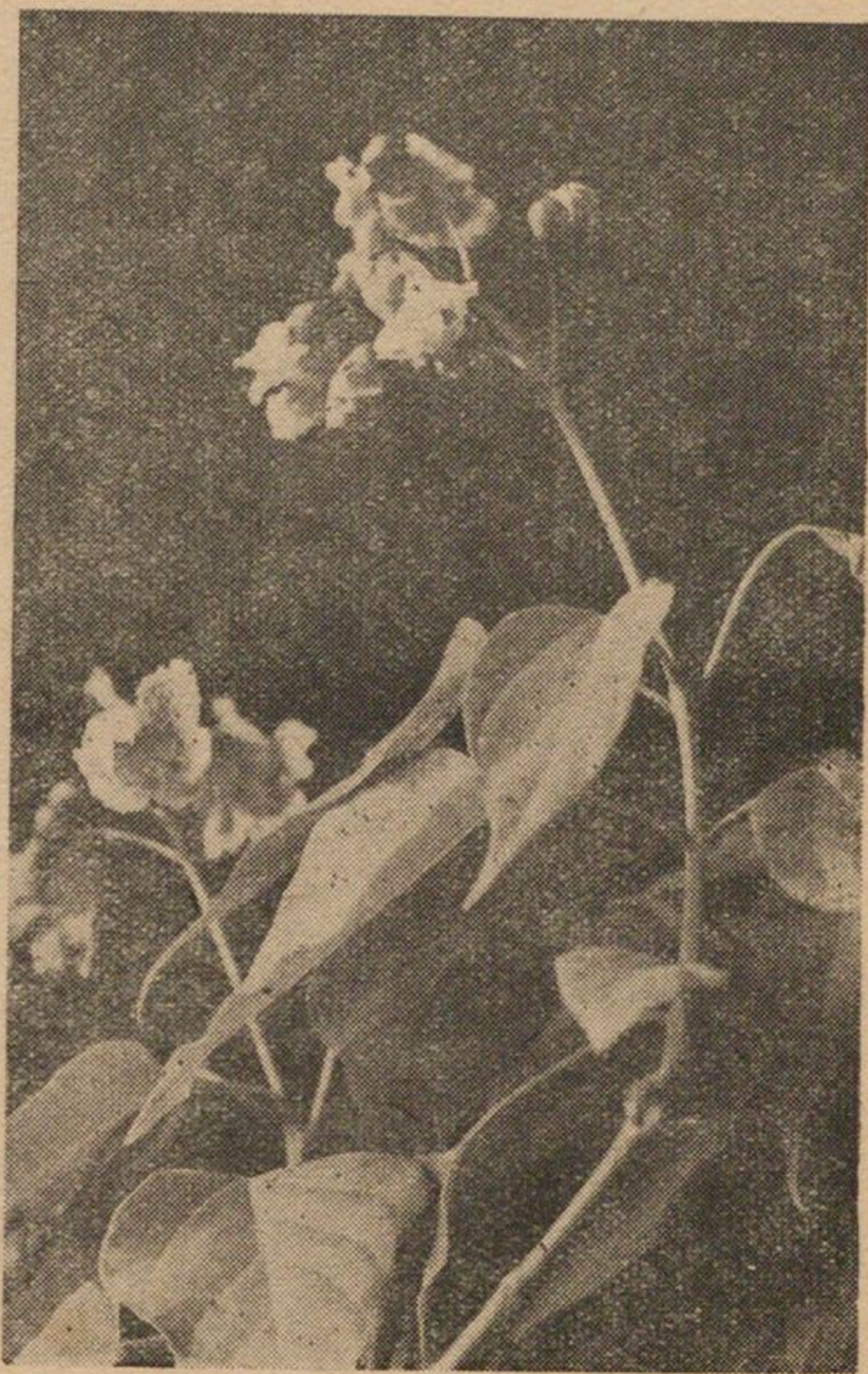
五月から六月にかけて咲く花に、エゾナナカマド（珍珠梅）（Sorbaria solbifolia Bunge.）がある。

樹高一米位の灌木で、枝條地下より叢生する。葉は羽狀で、ナナカマドに類似する。梅の花に似た小形白色の花が穗をなして開花する。初夏、市中の花屋には赤や青色に染め付けて切花として賣り出してゐるのを見るであらう。

藤羅

梓

キササゲ（梓）（Catalpa ovata Don.）は、一見桐の花に良く似てゐるが、小形で白色である點が異つてゐる。

秋季、三十糎位の細長い果實をつけ種子には兩端に短かい翅がある。

「上梓」と云ふ言葉は、梓の木で版木を作つた事から出たのであるが、梓が版木として最上のものであるかどうかは疑問である。北京では、景山や東單の方面に街路樹としてあるが、感じのよいものである。

キササゲの一種に、ヒメキササゲ（新稱）（Catalpa Bungei C. A. Meyer.）の大木が各地の公園、寺廟に栽培されてゐる。キササゲに似て花、葉共に小形である。五月頃、濃紫色の花が樹一面に咲き、また一種格別な美觀を呈する。果實はキササゲに比べて更に細長く、種子も小形である。

支那北部原産で、特に河北、河南、山東、江蘇、雲南、貴州省等に自生してゐる。

洋槐樹

通常、アカシアと呼んでゐる。（編者記・本誌では滿洲通名の胡藤と呼んで、度々、グラフ面にも紹介して來たもの）

これは實はハリエンジュ、ニセアカシア、イヌアカシアと云はれるもの（刺槐、洋槐）（Robinia Pseudoacacia L.）のことである。

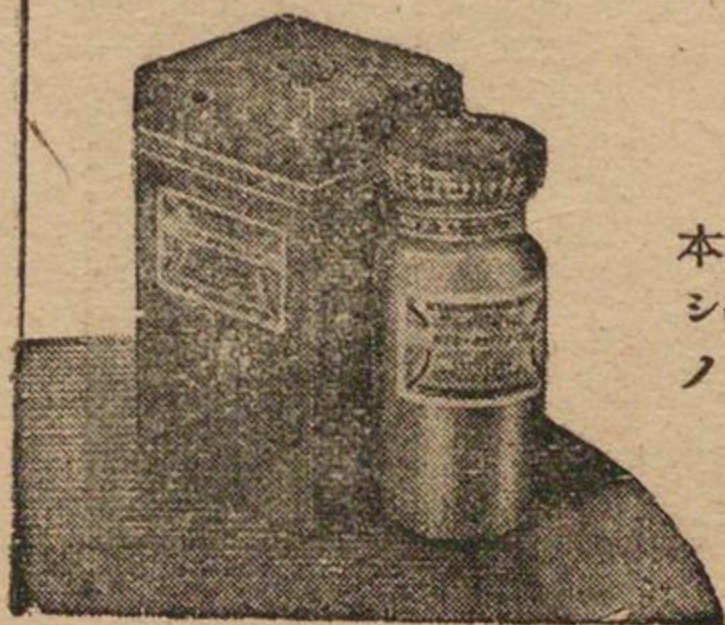
槐

元來、北米から輸入された木であるが、今では全く歸化植物となり、華北の重要な植林樹となつてゐる。北京の街路樹の主なものはアカシアとエンジュであるが、アカシアは花が下垂し、エンジュより先に開花する。エンジュの開花期は夏である。果實もエンジュは念珠狀であるが、アカシアの方はエンドウの様な莢の果實を結ぶ。

アカシアの花の香が北京の街々に漂ふ頃は、春光もいつしか紫外線の多い夏の光と化してゐるのである。そして森の都、北京の情緒をいよいよ發揮して來るのである。

（筆者は東城第一國民學校理科室）

洋槐樹

鎭咳鎭痛新藥…
ネオ ベフェクチン
鎭咳鎭痛新藥
本品ハ燐酸コデイント其作用ヲ同ジクスルモ燐酸コデインニ比シ作用迅速効果顯著ニシテ而モ持續性ヲ有シ確實ニ鎭咳鎭痛効ノヲ奏ス
大阪市東區道修町二丁目
發賣元 東洋製藥貿易株式會社

項羽と虞美人

——淮北の旅に拾った史話——

小山内　匠

安徽省の北部、即ち淮北が支那歴史地理の上に占めてゐる地位は極めて高い。就中、此の地を活躍舞臺とした英雄豪傑が後世に殘した話題は、洵に興趣に富んだものばかりだ。しかもこれ等英雄豪傑の在りし日を偲ぶ幾多の史蹟が現存してゐることも支那では珍らしい地方だと云へよう。そして、それ等につきものの後日譚が、素朴な地方傳說として、口から口に、耳から耳へ語り傳へられてゐることもほほゑましいことである。

のみならず、宿縣の西方、太平集には、徐州攻略緒戰に華と散つた西住戰車長戰死の地があり、これがまた此の地方民の新らしい語り草の一つとなつてゐる。

それは兎も角、新舊史蹟と今昔の話題に富む此の地方に着目したパール・バック女史が、名著『大地』を取材したことも故なしとしない。その『大地』の主人公、王龍と阿蘭の實在說は疑問だが、彼と彼女によつて表象された人達や、それと同じやうな苦しみを味つてゐるのは、正しく淮北地區の住民である。

此の地方は、三國志を始め漢楚分爭金宋の爭覇等、支那歴朝興亡の舞臺となつた土地だけに、足の行く處、そこに古蹟があり、話題の出る處、そこに傳說があるといつた有樣で、パール・バックを凌ぐとも劣らぬ物語りがザラにあるわけだ。然し、ここでは其の中の一つとして『四面楚歌』と『虞美人草』で人口に膾炙してゐる項羽と虞美人の情緒物語を史蹟と傳說を基礎に紹介することにしよう。

× × ×

意氣と才と實力を兼備した項羽が、目指す關中を劉邦にまんまとしてやられ、劉邦暗殺計劃の『鴻門の會』でも前者同樣、厠に行くとて席を立った劉邦が、そのままスタコラ暗に消えて二度の失策。さてこそ憤懣やる方なき項羽が、巨大を以て有名な阿房宮に火を放つて、軍兵を彭城（今の徐州）に引き揚げ、自らは西楚の覇王と稱し、劉邦と對戰したのが謂ゆる漢楚の分爭。以來漢楚は五年に亙る天下分け目の大いくさを展開したが、垓下城の一戰は遂に劉邦をして漢の高祖たらしめ、項羽をして悲劇のドン底に叩き込んだ。

さて問題の垓下城は、一般に安徽省靈璧縣城だとされてゐるが、これは大きな誤謬であつて、同縣城は唐代以後の創建にかかはるので、漢楚戰當時は原ツぱに相違ない。では、項羽が悲憤の垓下城はどこか？　と云へば右縣城から更に南へ三十キロの濠城といふ一部落の北に接して現存してゐる三百メートル四方の土手が、四面楚歌の語を出した垓下城である。附近民はこれを覇王城と呼び、子供達の遊び場にしてゐる。又、同地方に出沒する共產新四軍の露營地ともなつてゐる。

垓下の圍壁內の中央には、小廟と西楚覇王の古碑がある。いふまでもなくこの小廟は、項羽を弔ひまつつたものだが、此の小廟に願をかけると何でも達せられるとの傳說がある。悲運の敗將と願望成就のつながりは、甚だ辻褄が合はないが、これは誇張され易き鄕土愛の然らしめたことで、有り得べき矛盾であらう。

× × ×

歴史物語に依れば、楚の覇王たる項羽が楚軍の重圍に陷つたと記述されてゐるが、甚しい矛盾であり、脫出前後の情況も混亂してゐる。私の現地に於ける見聞ではこれは次のやうになる。

都、彭城を追はれた項羽は、劉邦の漢軍と淮北の野に決戰を挑み大いに漢軍を惱した。

劉邦はかねてより項羽の武略を恐れて居たので、極力決戰を避け政治攻勢を以て應酬、斯くて交戰數次、年を經るに從ひ緒戰に於ける大戰果は何處へやら、いつの間にか楚軍治下の民衆は漢の政治支配下に置かれてゐた。

漢楚戰が、劉邦の思ふ壺の長期戰に入るや、さしも項羽の武略も次第に不利となり、遂に項羽は手兵二千と共に南下敗走し、垓下に陣した。

垓下は北方に大きな河が流れ、自然の大クリークを構成する要地で、城としては極めて堅固なので、項羽はここに兵馬を休め、反擊戰準備の兵の練成をも開始した。ところが或る夜のこと

城近く包圍を壓縮した漢軍が、一齊に楚の鄕土歌を高唱した。これを聞いた項羽が又しても劉邦の攻略功を奏し、楚の地は盡く漢軍に歸し、楚の民は多く劉邦に屬した。今となつては戰勢非なりで、血路を開き脫出あるのみと早合點し、世上有名な悲歌を殘して垓下の圍みを破り東北に敗走した。

力、山を拔き、氣は世を蓋ふ
時に利あらず、騅（愛馬）ゆかず

とて、愈々最後の旗上げ地、項羽が父祖以來の地盤であり、同時に虞美人の生れ故鄕である宿遷に向つた。しかし敵の追求激しく、その半にも達しない泗縣靈霹間の一寒村（現在は虞姫村）に戰備不十分ながら防戰することになつた。

その夜、佗しいながらも一軍の將として、兵たちを犒らふ宴を開いた。勿論虞美人は大項羽の敗戰は足手纏ひな自分ゆゑと、女心の一心に思ひつめ、既に悲壯な覺悟を固めてゐた。只それを決行する時機のみが虞美人の心に掛つてゐたが、夜も更け盃も重なつた頃又しても漢軍の重圍を告げる楚の歌が次第に高くなつていつた。

敵將項羽が日頃聞きなれた楚の鄕土歌を漢兵に唄はせる劉邦の謀略戰術は餘りにも深刻な皮肉でもあつた。

虞美人は愈々自刃決行の機到來を知り、舞を舞ふとて夫の愛劍を手に、

漢兵、已に地を略す
四方、楚歌の聲
大王、意氣つきぬ
賤妾何ぞ生をつながん

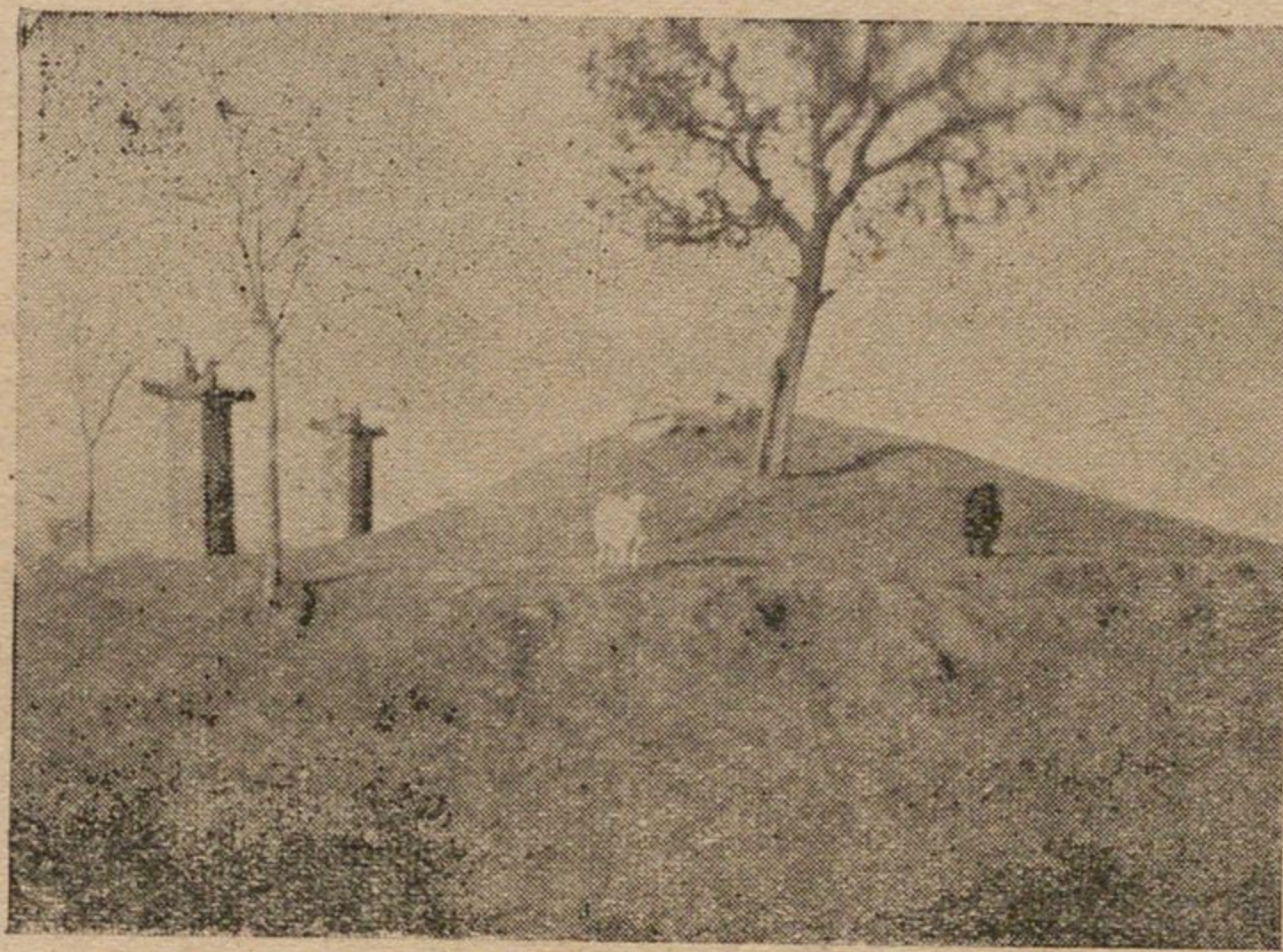
唄ひ且つ舞ひ終るや、愛劍を首につきさし、朱に染つてどつと倒れた。

項羽は、愛姫の意を汲み、滂沱たる熱涙をふるつて虞美人の首級をはね、死地を脫してあてどなき轉落の旅に立つた。

そして胴體は其所に埋めたが、其の塚から年毎に咲く罌粟の花は眞白くあるべきに眞紅に咲いた。之を誰云ふとなく虞美人草と呼ぶやうになつた。

× × ×

まさか虞美人の流した血のせゐでもあるまいが虞姫墓のある靈霹縣は支那第一の阿片の產地であつて、同縣地方に咲く罌粟の花は眞紅に咲くのが特徴である。

塚の周圍一面も罌粟の花畑であるが生前の虞美人を偲ぶに相應しく、妖艶そのものであつた。尙塚には山梨の大木があつて、村人の云ひ傳へによれば此の木の葉を姙婦の腹に乘せると美人が生れると云はれ、又此の葉で顔を撫すれば美人になれるとの由。それがため、遠近を問はず此の木の葉を取りに來る者後を絶たず、年中殆んど裸木に近い有樣であるといふのも愉快な話である。

虞美人の塚と山梨

それはさて措き、項羽は垓下の一戰に敗れて以來、急轉直下沒落したとはいへ、愛妻虞美人の白骨を抱いて安徽省烏江に自刎したとの報が傳はるや、薄幸の佳人と不運の武將に對する同情が急に昂つて來た。そして政略で天下を得た漢の高祖（劉邦）への反動が起り、形勢俄かに不穩となつたので、民衆への御氣嫌とり政策から淮北地區民に對しては特に免稅とした。

更に又、後世、明の太祖朱元璋が乞食坊主より身を起し、淮北地區民の力に依り天下を取るや、明朝また漢朝にならつて此の地を免稅區とした。

此の二朝に亙る長い免稅は、やがて動かすことの出來ぬ不文律となり、清朝の天下になるも民心の離反を恐れてか免稅に近い輕稅をもつてし、遂に今日にまで及んだのである。それがため宿縣、靈霹等の淮北地區は現今尙ほ一年一畝當りの稅額は正稅附加稅を合して僅かに八錢にしかならない。

これは恐らく歷史の國、支那ならでは見られぬ故事が政治に及ぼした現象であり、それは又遠く悲劇の武將項羽に端を發したことであつて、驚く勿れ今は昔、二千五十年の後日譚でもあるわけである。（筆者は支那研究家）

『啼笑因縁』のこと

――現代支那大衆小説――

飯塚朗

現在、北京の文學といへば、謂ゆる大衆文學の横行といふ貌で低迷してゐる有様であらう。然し純文藝的な立場から云つても、少くとも事變前までに築き上げて來た中國の現代文學なるものの足並までには、未だ未だ揃ひかねる状態に在るのと同様に、大衆文學的なものも數等劣つてゐる有様を肯定出來よう。

情海斷魂記、北京明星等々で、事變後の北京で眼につく大衆作家、陳愼言や李薰風等も、事變前の二流三流の地位をそのまま浮び上らせて書きなぐつてゐる様子である。

こんな工合で、事變以前、民國十九年以後の讀者層を風靡したといふ啼笑因縁などが、未だに讀物の貧困な現在の讀書界に、その魅力を保ちつつあるらしい。

啼笑因縁は、飽くまで大衆小説であり、舊い型の章回小説、即ち第一回、豪語して風塵を感じ、嚢を傾けて醉を買ひ、哀音絃索を動かして滿座秋を悲しむ、といつた風の題名で話を進めて行く底の話本じみたロマンスである。然しこの舊型が、宋代以後の中國の民衆にどんなに親しまれてきたか、未だに一流の新聞にもこの型で連載される小説を見出す次第である。彼女の運命や如何、下回交代。各回の終りに必ずさうした文句で結ぶ小説形態が彼等にはまことにとつつき易いのであらう。

日本でもてた小説が映畫になる様に中國でも此の小説が映畫化された。

初めは明星公司で、有名な胡蝶が主演で撮影された。最近は藝華公司で、李麗華が主演した。前者は原作に忠實に幾集にも分れての長尺物らしかつたが、後者は縮めた上にセツトばかりで折角の北京舞臺の小説を臺なしにしてゐた。それでも新々劇場で封切られた折には、相當の人氣を煽つてゐた様に思ふ。作中人物の噂話を、姑娘達が集まつてしてゐたり、映畫の或る場面場面に、やんやの拍手を送つてゐたのを覺えてゐる。

啼笑因縁といふ小説は、日本でいふと何に當りますかと訊ねられたことがあつたが、判然何に當るとも云ひ切れぬ。かういふ比較は往々にして日本の作家や作品に迷惑をかける結果になつたりして面白くない。しかし作中の人物が浮き出して、はつきりとその性格を持ち、活社會に息吹きをする底の側に於て、貫一お宮を想ひ出す。即ち樊家樹式な青年や、沈鳳喜式な娘や、何麗娜式なお孃さんを、隨筆などの中に取り入れたものを知つてゐる。だが、この啼笑因縁が、そのまま金色夜叉に相當するなどとは勿論私は云はない。ただその感じに於て明治文壇の香に似通ふ點を肯定して、この啼笑因縁の傍題でもつければ『戀模様北京噺』ぐらゐのところになる様な氣はする。

然し、この傍題ほどの江戸趣味でなく、宋代のものの形が現代まで殘された様に、江戸時代の香の殘つた明治物といつた味なのである。

啼笑因縁の作者は、張恨水であり、彼が中國大衆文學を代表してゐると云つても過言ではあるまい。啼笑因縁の外にも春明外史、金粉世家、太平花、綠珠小姐、春風楊柳、滿江紅、落霞孤鶩、歡喜寃家、似水流斗、等々枚擧に遑のない程だが、そのどれもが長篇であつて、未だ若い作家ではあるが、その息の長さに愕く次第である。中國的エネルギツシユとでもいふか、紅樓夢や水滸傳、金瓶梅等に愕かされる逞しい筆力を、張恨水は現代に持つた作家である。

啼笑因縁よりも、彼のものとしては春明外史の方がいいとも云はれるが、矢張り啼笑因縁の方が有名でもあり、彼の代表作として紹介してもよからうと考へる。前にも述べた様に、之が一世を風靡したものならば、この中から中國の民衆のとつ附かうとする方面も窺へるかも知れない。

中國の知識階級に屬する人達の中でも、或人は啼笑因縁など通俗で、といふのを屢〻聽いた。私もこれを通讀してみた時には、別にさ程面白いとは思はなかつたが、北京が舞臺ではあり、北京の風俗習慣がかなり覗はれさうなので、かうした大衆物も代表として紹介する意味もあらうと譯しはじめてみたが、さう馬鹿にした文章ではないと思へる。描寫の筆の細かさに氣持をよくして譯した夜もあつた。そして作中の人物がいつか譯者の心の中に生きて來てゐる様な氣がする。

上海新聞報の快活林といふ欄に連載して好評を博し、これが單行本となつて民國十九年十二月、三友書社から出版されるや、飛ぶ樣に賣れたらしい。

讀者からは作中の人物の行方などを心配して、續集を出して呉れといふ樣な註文が作者の許へ頻々と來たらしい。かうした人氣を煽つた小說が、支那では勝手に出版されたり、勝手に誰かが續集を書いたりするので、版權の問題で新聞記事を賑はした事件も起つたのである。

民國十八年の五月であつた。作者張恨水は、北京に遊び、中央公園の初夏のすがすがしい空氣の中で、この作品へのヒントを得たのだといふ。そして純文藝からはまことに遠いものだと自らも云つてゐる。然し、これはこれで十分に價値のある作品であつたのだと思ふ。

凡て、二十二回、四百字詰の原稿紙で譯したら千枚近くなるこの長篇の中に踊る主要人物を御紹介してこの稿を終りたいと思ふ。

樊家樹、彼は南方から北京へ遊學に來た青年である。從兄に當る陶伯和の家に身を寄せて、九月の新學期から大學へ這入る積りなのである。一日、陶伯和の家のボーイから教へられて天橋の盛り場へ遊び、そこで關封峯といふ武藝をやる老人と知り合ひ、意氣投合して彼の家へも出入りする樣になる。

關封峯の娘秀姑は、いつか心ひそかに家樹を慕ふ。伯和の家では家樹が下流の人間と附き合ひ始めたことを知つて、伯和夫人の知つてゐるお孃さんで何麗娜を家樹に紹介し、家樹の氣分を轉換させようとする。伯和夫妻といふのは、西洋かぶれのひどい人間で、毎晩の樣にダンスに行つたりする雰圍氣を、家樹は迷惑がる青年であつた。然し天橋の盛り場で家樹は素的な美人を見附けてしまふ。伯和夫妻の心配した武藝師の娘秀姑ではなくて、家樹の戀の相手は、寄席で艶歌を唱ふ沈鳳喜といふ娘だつたのである。この沈鳳喜と何麗娜とは生き寫しの美人で、映畫でも二役をやつてゐるが、前者は教養こそないけれど名もない花の愛らしさに堪へ難い型の姑娘であり、後者は英語交りの會話をするモダン小姐である。

家樹は鳳喜一家、母親と叔父があるが、それの生活費を出してやつて、鳳喜を女學校へ入れて勉强させる。やがて南方の實家からも正式の許しを受けて晴れて結婚をしようと云つてゐる中に、故鄕から母重態の報せを受けて家樹は後事を關封峯に托して蒼惶と北京を去る。鳳喜の叔父といふのが、寄席の蛇皮線彈きでならず者、これが家樹の仕送りよりももつと金になる蔓を見附けて、當時、北京軍閥の偉ら方である劉將軍に鳳喜をおしつけることになる。將軍の邸の宴會に招かれたまま鳳喜が監禁同樣の憂き目に逢ひ、封峯が手下を連れて忍び込むが、時すでに遲く鳳喜は將軍の甘言と、金銀財寶に眩惑されてしまつてゐた。母の病癒え、結婚許可の喜びを懷いて歸つて來た家樹の前には、裏切られた悲しい現實が待つてゐたのである。

この復讐は俠女秀姑の手に依つて成される。權勢と黄金の前に、理性のなかつた女、沈鳳喜の生活は、墮落した軍閥の將軍にひとたまりもなく覆へされ、自己の愚かさと家樹への良心の呵責から、遂に精神錯亂して狂人となり果てる。將軍の好色につけ入つて秀姑も侍女として忍び込み、西山に於て俠氣の刄を振ふ。而して何麗娜と家樹とを會はしめて二人の幸福を祈りつつ父親と北京を去つて行くのである。

荒筋で、紙數も切れたので興味も湧かれまいと思ふが、何れその全貌をお傳へ出來ることと思ふ。ここでは簡單に『啼笑因緣』の概要の御紹介に止つた次第である。（筆者は新民會部員）

脂肪性榮養の補給に……
ハリバがよい
かぜ引かぬよう病氣せぬよう…
それには体内に充分な脂肪性榮養を補給し皮膚や呼吸器粘膜の防衛力を强化することです
一日二粒で足り樂々と服めます。
MILK
BUTTER
（包裝　壹百粒・五百粒）

北京の鳴り物（二）

早瀬　讓

前號に於て賣鑼をはじめ大小鑼數種及び錫、鉦、銅點など十一種類の鳴り物に就て見て來た。元來中國の鳴り物はその主要部分を構成してゐる材料によつて、八種に分類され、これを八音といつた。

今、詩經に載つてゐる樂器は

（金）鐘、鉦、鏞（また庸とも書く）
（石）磬。
（絲）琴瑟。
（竹）籥、篪、篴、簫、管。
（匏）笙、簧。
（土）缶、壎。
（革）鼓、鼛、賁鼓、鼉鼓、應、田縣鼓、鞉。
（木）柷、圉。

また、禮記に載つてゐる樂器は

（金）鐘。
（石）磬、玉磬。
（絲）琴、大琴、中琴、五絃、瑟、小瑟。
（竹）管、籥、篴、葦籥、篪、箎。
（匏）笙、竽、簧。
（土）壎。
（革）鼗、鞀、鼓、鞞鼓、土鼓、蕢桴、縣鼓、應鼓、拊搏、楷擊、鞉、魯鼓、薛鼓、相、雅、楹鼓。
（木）柷（椌）、敔（楬）

ここでは、これらの一々に就て詳述の繁は避けるが、以上の樂器、卽ち鳴り物が、皆が皆純粹漢民族個有のものであるわけでなく、右にかかげた周末の樂器のうちに漢民族の個有のものとしては鐘、磬、琴瑟の類をあげ得るばかりで、笙の類は多く他民族からこれをとつたのである。そして中國の樂器は大體八音の線に沿つて發達し、清朝に至つて一應完備したかの觀がある。

卽ち、淸末北京に流行した樂器は劇の方面では文劇用に、胡琴、月琴、笛子、絃子、單皮鼓、夾板。また武劇用に大鑼、小鑼、堂鼓、單皮鼓、夾板、大鈸、小鈸、齊鈸、海笙、號筒、哨吶、長喇叭、梆子などがあつた。また一方に於て淸康熙帝は古樂を復興し、雅樂を奏せしめたから、この方面の樂器も整備し、北京には當時中國の新古の樂器が大いに流行するに至つた。

ところが、民國以來祭天、祭廟の古樂は全廢され、結婚、葬儀の際の音樂も西洋式が取り入れられるやうになつて北京の樂器も次第に變つて來た。それにも拘らず尙も今日北京の胡同に過去數千年來傳來した各種の樂に使用した樂器、鳴り物が、いつの間にか民間に脫落し、保存されてゐる。卽ち物賣りの鳴り物がそれで、それらの殆んど全部が中國個有の又は傳來した當時の樂器の原型をとどめてゐたり、雅樂その他、劇に使用してゐるものと同じものであつたりすることは、まことに興味深いことである。つづいて個々の鳴り物について見て行かう。

雲鑼（賣針欄杆者）

（これは絲や針などを賣りに來る、日本で云へば「小間物屋」の鳴らして來る鳴り物である。俗にこの雲鑼のことを鈴子と云ひ、この物賣りを搖鈴的と云ふ。（鈴をふつて來る物賣りの意味か）しかし、この鈴子なるもの、日本の鈴とは異つてゐて、元朝の雲璈といふ樂器の一部である。

元史禮樂志にある雲璈とは、銅製の小鑼十三面を一つの木架にかけたものであつた。この雲璈は淸朝では改編し雲鑼といつて、小鑼十面を一つの木架にかけて作つた。

光緒會典には、雲鑼は、丹陛大樂の各部樂に皆これを用ひ、銅を型どつて作つた。そして外面の直徑は皆三寸五分二厘九毫云云とある。絲針賣の鳴らして來るものはこの雲鑼が脫落したものであると思はれる。

一體、中國の樂器で他と異り興味深いのは、編鐘といひ、編磬といひ、ここに云ふ雲鑼といひ、何れもそれが幾つかの鐘、磬、または銅鑼を二列又は三列に懸け吊してこれを打ち鳴らし、その音階を樂んだことである。

北京で今日見かける雲鑼は、劇に使用されるものと葬儀の行列の鳴り物として使用されてゐるものがあり、何れも銅の小鑼十面を四段に分け、最上部に一面を、あと三面づつを三段に分けて木架にかけて作り、それらは皆音が違ふ。また最上部の一面は常用しないから、九音鑼ともいふ。そしてこれは小鎚をもつて打つ。光緒會典によればこの音の異るのは鑼の厚さが異つてゐるためで、例へば下右應姑洗之律の厚

さは二厘五毫二糸、下中應蕤賓之律の厚さは二厘八毫四糸といつた工合で、最上應半無射之律の厚さは五厘九毫八糸と順次上になる程厚くなつてゐる。

さて小間物屋は、これをどうして打ち鳴らすかといへば、丸い鐵條の輪に振り子をつけ、その輪の中央に懸けた小鑼を、丁度でんでん太鼓を鳴らすやうに振り動かして打ち鳴すのである。

鐵拍板（磨刀剪者）

これは磨ぎ屋の鳴り物である。手藝人もこれを使用してゐる。普通に掛連といひ、鐵板の鳴りもので唐書禮樂志九部樂高倡伎樂器中に鐵板の名が見えてゐる。宋陳暘樂書のなかにもこれを引いてゐる。しかし樂器のなかに長く使用されず、ただ文字に殘つてゐるのであるが、かうしてそれが民間の磨ぎ屋の鳴り物に使用されてゐるのは誠に面白い。

また田舍から箒を賣りに來る手藝人も間々これを使用してゐる。しかしこの方は少し鐵板の厚さが薄い。

串鈴（賣扇子者）

扇賣りの鳴り物で、俗に串鈴といつてゐる。この鈴は、くるみの實よりも少し小さく、多く銅又は眞鍮のもの。中空の中には銅の珠が入つてゐて、よく鳴る。串鈴は絲繩に一節に二個づつつけ、八條にそれぞれ四段、都合六十四個を一架として扇子箱の上につけてゐる。その音は『フアロ、フアロ、フアロ』と實に趣きのあるものだ。

この丁度串柿のやうな形の串鈴が何に由來するか、府如山は西域から傳來したもののやうだと云つてゐる。また清朝の廊爾喀樂用の『公古哩』は、一本の繩に多くの小鈴をつけて、これを使用してゐた、蒙古族のなかにはいまでも腰に多くの鈴をつけてゐるものがあるが、さうしたものと串鈴とは一連の關係があるやうにも思はれる。

口琴（賣口琴者）

口琴賣りの樂器といふよりも、賣るためにその口琴を吹いて鳴り物に當てゐるのだ。口琴に就ての文獻は支那に於て非常に多い。しかもそれらは何れも今日の口琴と酷似してゐる。

いま乾隆勅撰皇朝禮器圖式によれば口琴は、鑄鐵でこれを作り、股のなかに簧（音を出す舌）があり、板がついてゐるその簧の長さは二寸八分八厘、簧の末端の、上に曲つてゐる部分は七分二厘あり、蠟で珠をつけてある。股の長さは簧と同じく、その雙方の股の端の距離は三分九厘、末の距離は七厘、柄の長さ三分二厘、横にして口に銜み、簧を彈き、舌で呼吸して諧音を出す、とある。

簧（理髪匠）

理髪匠の鳴り物で、俗に梭子といつてゐるが、これは形からいつたものとは思はれるが、梭子ではピツタリとせぬ。寧ろピンセツトとでも云つた方が分りよいだらう。また音の方からは音叉といへばよいかも知れぬ。

簧とは笛の舌をいふので、それが震動して音を出す點は立派な音叉であり、この音叉そのものを鳴り物に用ひてゐるのは興味があり、しかも今日では只北京にだけある鳴り物であつて、滿洲から傳來したものだと云はれてゐる。そして口琴と非常にその構造がよく似てをり、これはただ形が大きく鐵の棒で兩股の中を彈いて震動させて音を出すやうになつてゐる。

小銅角（磨剪磨刀者）

今日北京で磨ぎ屋の使用してゐる鳴り物で俗に挑子といふ。この小銅角は清朝樂器の小銅角が市中に脫落して呼び賣りの鳴り物になつたものである。光緒會典によれば鐃歌鼓吹樂前部大

TRADE MARK REGD.
イチジク浣腸
疫痢と便秘に
お子供様病氣の應急手當に直ぐ役立つ
便秘やお子様の消化不良の應急手當には浣腸が第一です
お宅で簡易に完全な浣腸が出來ます
浣腸器不要 副作用無し
小人用 大人用 特大人用
御注意 近來同種品あり透明袋入イチジク印と御指定御求を乞
東京・大阪 イチジク製藥株式會社

樂凱旋鐃歌樂に使用したものとある。その全體の長さ四尺一寸四厘、材料は銅をもつて作つてゐる。そしてこの特徴は何分、四尺もある長いものだから平素は上半分は下半分に納めておき、使用するとき引出してこれを吹く。なほ最近の磨ぎ屋には、かうした眞直ぐに長いものでなく、軍樂隊の喇叭の如く上半分の管になつてゐる部分をぐるぐると卷いたものを用ひてゐるが、音は同じである。

この他この樂器は劇の中で馬の嘶とか劇を終つたときに使用してゐる。なほこれが小銅角といふので、別に大銅角があるといふことが想像出來るが、その大銅角は今日では、婚禮の行列、葬式の鳴り物に使用してゐるのを見受ける。その形は小銅角の如く、スマートでなく龕燈提灯に柄をつけたやうな恰好をしてをり、光緒會典によれば、その長さは三尺六寸七分二厘と出てゐる。そして小銅角と同じ樂に使用された。

氷盞（賣酸梅湯者）

夏のころ、樹蔭に涼を商ふ酸梅湯賣（勿論寒中でもある）、あんずのシロツプを賣る大道商人の使用してゐる鳴り物である。俗に氷盞といつてゐる。

この鳴り物に似た形をしたものを文獻で探せば光緒會典のなかの『接足』によく似てゐる。接足は細緬甸樂に使用された小さな茶碗型の銅器で、口徑一寸八分、高さ一寸、厚さ一分、中隆起五分、腰まはり三寸、各に圓い孔があり、黄色の根緒でつなぎ、左右をうち合せて鳴らすと出てゐる。また乾隆勅撰皇朝禮器圖式に出てゐる凱旋凱歌樂に用ひた星(シン)にも似てゐる。星は口徑一寸八分、高さ一寸、厚さ一分、中隆起四分、腰まはり三寸。

なほこの星は、唐書驃國傳の鈴鈸から出たものと思はれ、鈴鈸は周圍三寸韋を通し臍を打ち合せて音を出した。この星は今日劇にも使用されてゐる。然しまた酸梅湯賣りの多くが回教徒であることからして、かうした鳴り物は支那の西南境方面から傳來したものとも推測される。殊に印度における迦陵頻伽の舞の時、手に小銅拍子をもつて妙音を立てたといふこと、またそれが古代の西亞細亞から西へは波斯を經て埃及に傳り、東へは印度に入り、支那へは回教徒などと共に輸入されたものと思はれるが、これは『鈸』所謂『によう八』の原型であり、その比較的原始的な形のものが、卽ち形の小さいものが、一つは接足となり、一つは氷盞となつたものと思はれるのである。

北京の街に殘つてゐる銅製の鳴り物で、一番種類の多いものは、鑼であり次は鈸である。また北京にある鳴り物で、樂器が、その原型は食器であるといふことを知らせるもののうち、氷盞の如きはその形が全く深い皿の形をしてゐることからして非常に興味深い。而も更に面白いことは、氷盞の二個の銅杯が一見同じ物と見えて、實は同じ

ものでないことである。

筆者の見た冰盞は二つは上下と判然と區別され、上部のものは下部のものより厚さに於ていくらか厚い。このことは音響を出すうへにおいて、意味のあることで、一見何の變化もないと思はれる冰盞も、それ自身には矢張り樂器として進歩のあとがあることを思はせてゐる。

最後に冰盞は二個の皿を重ねるが如くに打ち合せるのであつて、色々の書物から拾ふと、その名稱は銅椀、銅盞銅碟、銅冰盞、青銅的冰盞兒等々となつてゐる。

虎撑子（賣藥者）

藥賣りの鳴り物、日本でいへばさし當り富山の藥賣りを聯想する。俗に虎撑子、また鐲子といふ。虎撑子とは親指と食指とで支へて鳴らすことから來てゐると思はれ、また鐲子とは女の腕輪の形から來てゐる。

西藏の番僧がこれを用ひてゐるところから見れば、この方面から傳來したものと思はれ、引魂鈴、鐲子鈴鐺と呼ばれて、今日四川、雲貴方面では葬式の際の念經にこれが用ひられてゐる。

日本では、昔の馬の鈴には銅製のものを用ひてゐたが、形は虎撑子と同じであるが少し小型でスマートである。なほこの形を類似のものに拾へば、支那式の菓子器があり、昔は或は藥の容器として使用したものかと思はれる。

中の孔は、帶に通して腰につけたものと解しても解されぬこともない。

釘尺（釘鞋小販）

靴直しの鳴り物を、俗に釘尺といつてゐる。これはしかし樂器ではない。冰盞が、賣る品物を容れる二枚の皿を利用したのではないかと思はれる如くこれは又、その使用する道具をそのまま鳴り物に利用してゐる。

民社北平指南には、釘鞋的用鐵錘敲鐵器其聲「タン、タン」とある。かうした樂器ならざる鳴り物の音も、それを右の八音に當てて考へて見るとまた興味あるものだ。

銅搖鼓（賣燈油小販）

これは、燈し油を賣る行商人の使用する鳴り物で、銅搖鼓と普通にいつてゐるが、それは全體が銅をもつて出來てゐるからである。

西藏方面の銅を產出するところから傳はつたものかと思はれる。それは高溫多濕の印度方面の絃樂器が蛇皮を用ひ、牧畜民族の樂器が飼育する獸皮や筋などを用ひたと同樣、鼓もまた西藏において銅をもつて張られるやうになつたことは想像に難くない。

琉璃喇叭（賣布登登兒者）

ガラス喇叭は布登登兒賣りの鳴り物である。布登登兒は哺哺噔とも書く。その形は壺盧に似、柄がついてゐる。このガラス喇叭は哺哺噔と同じく、北京では琉璃廠で製造した。いづれも子供の玩具で、吹いたり吸つたりして音を出すのである。

日下舊聞考にガラス喇叭の方は記載されてないところから見ても、哺哺噔の方がガラスの樂器としては古く、それは斯の謂ゆる鼓璫であり、響壺盧とも倒披氣とも名づけてゐる。そしてガラス喇叭は長さ二、三尺、哺哺噔は直徑、二、三寸から大きいものは一尺位の何れも紫色をしてゐる。

古代樂器の八音のうち、石質のものには有名な磬があるばかりだが、ガラスも矢張り石質といふことが出來るから、ガラス喇叭が北京の街頭の鳴り物に加へられてゐるわけである。

なほ、ガラス喇叭の着想は、小銅角から、また哺哺噔は缶（ほとぎ）と壎（つちぶえ）とから示唆されてゐるやうである。勿論これは筆者の考へに過ぎない。（筆者は東亞新報連絡部長）

さくらフヰルム
躍進日本の代表的フヰルム
一般用に　スペシアルクローム
戸外用に　パンクロF
夜間用に　パンクロUSS

可園雑記

加藤新吉

　半年ぶりに東京に來て雪の皇居を拜した。時に大東亞戰爭たけなは、感慨眞に無量、今更ながら御民われ生けるしるしありと思ふ。

　北京を出て十幾日、旅行匆忙の故に忘れてゐた可園をこの數日急に思ひ出す。門、机、書籍、陶器、樹木、人、犬、すべてをなつかしく思ひ出す。これを歸心といふのであらうか。歸心を感ずるだけ既に大陸人になつてゐる譯である。それもその筈、大陸に渡つて二十五年にならうとしてゐる。

　二十三日、小林古徑畫伯をお訪ねした。たまたま細川護立侯と兒島喜久雄教授とが來て居られて、北京の寫生が座に出てゐた。畫伯が病氣をされた爲に、惜しいことに北京の寫生は殆どすべて未完成である。恐らく私が戴いて居る可園、書齋から中門を見渡した寫生が、最も手のこんだものであり又最も完成に近いものであらう。一寸自慢をしておめにかけたい氣になつたが北京に殘して來たので仕方がない。

　畫室の庭は東京とは思はれない靜かさで、紅白各一株の梅が香つてゐた。ひよどりが二羽、白梅の枝に來て鳴いた。私はこの鳥がいつも來る故郷の家と、朝ごとに喜鵲が群れて遊ぶ可園の庭とを思ひ出した。細川侯もお邸の庭を思ひ出されたと見えて、そこに棲んでゐる鳥類の話をされた。就中、高い梢の巢でかへつた鴛鴦の雛がまだよくも飛べない頃、音を立てて地に落ちて池に入るといふこと、畏れ多いお話であるが、今上陛下がそれを興がらせ給うてつぶさに御觀察あらせられたといふことを、特に感銘深く拜聽した。

　細川侯は、また、その庭の一部に野菜の種子を播いたが、手が屆かないのでものにならなかつたと笑はれた。時節柄、市民一般と同じく野菜に不自由して居られるのである。否、昭和の御民として彌榮日本の苦難を體驗して居られるのである。昔の肥後の殿樣であれば米の節約の話をされる譯はない。衣料切符が、都會百點地方八十點、絹物は四分の一點數であることまで御存じない筈である。お別する時に、北京の松崎さんに宜しくと云はれた。柔父先生は熊本の舊藩士である。

　その夜、官休庵の茶道教授を拜見した。茶室は本郷にある。在京の少壯學者達の一群がそこで稽古をして居られた。後藤眞太郎氏がその一員であるので伴れられて行つた譯だ。そこで「武者の小路」を通じてだけ知つてゐる千宗守宗匠に初めておめにかかつた。宗匠は、玉泉山の天下第一泉を空輸寄贈されたので北京の水は飲んだと語り、機會を得て訪ねたい御希望を洩らされた。稽古の人達の中に幾人か北支を踏んだ人があり、そこへ私が舞ひ込んだので、北支座談會みたいになつてしまつた。その爲、茶道講義がお流になつたのはお氣の毒であつた。

　後藤氏持參の干瓜がその席で披露された。これは哈密の瓜として名のあるもの、新疆の奥からはるばる駱駝の背に運ばれて來たものである。私の友人は厚和でそれを入手した。かねて西北方面のことを考へたり、調べたりしてゐる我々の仲間が喜んで頒けあつた。その一部を後藤氏に贈つた。固より誰にでも向くものでなく、特に國民的關心が南に向つてゐる際いささか方角違でもあるが、流石に知識人の集だけあつて大いに珍重されたのは愉快であつた。（二月二十五日）

第一書房 今月の新刊

＊先づ、文學博士**高楠順次郎**氏の『**東西思潮と日本**』（一・五〇）が出ました。全十四講にわかつて述べられた東西思潮の構想こそ、果して我が日本にどのやうな影響を及ぼしてゐるか。日本文化の過去と未來は此處に鳥瞰され指針されます。

＊名著『わが旅の記』以來の。**吉田絃二郎**氏の紀行文の殆どすべてを網羅した『**續わが旅の記**』（一・五〇）が愈〻吉田氏愛讀者の待望裡に出版されます。永遠の旅人にして自然の寵兒たる氏の心情は愈〻愈冴えて人生の哀歡はここに極まるといふべきでせう。

＊その他の新刊では、文學博士**五十嵐力**氏の『**日本傳説集**』（一・五〇）があります。をさむる傳説七十八篇、何れも色とりどりに興趣盡きません。

＊法學博士**大川周明**氏の『**米英東亞侵略史**』（一・二〇）は好評絶讃を浴びて增刷中です。決戰下必讀の名著としておすすめします。

＊**戰時體制版**では**淺野晃**氏の『**西洋二千年史**』（〇・七八）が增刷出來、依然好評を博してゐます。

支那關係圖書紹介（7）

歷史關係（一）

東洋史大系　十三册、平凡社刊、全部で數千頁から成つてゐるので、通讀するといふやうなことは容易でないが、東洋史全般に關する問題を比較的容易平明に知り得るといふ點では、最も便利である。廣義の東洋史で、日本史、朝鮮滿洲史等をも含んでゐることも好い。執筆者も矢野、橋本、和田、稻葉等一流東洋史家を始め中堅どころ十數人の責任執筆で信據し得る内容をもつものである。但し多人數執筆であるため記述方法などにやゝ統一を缺く憾みがある。

第一册、東洋考古學
第二册、東洋古代史
第三册—第五册、日本全史
第六册—第十册、東洋近世史
第十二册、中央亞細亞史、印度史
第十三册、朝鮮史、滿洲史
分册賣りもしてゐる。

物語東洋史　十五册、雄山閣刊、これも大部のものだが、前者に較べると一層平易に又興味的に書かれてゐる點で讀み易くとりつき易いのが好い。執筆者も一流どころの顏振れを揃へてゐるが、責任執筆とは云ひ難い。但し相當良心的に記述されてゐるし、且つ東洋史各方面の問題を一應網羅してゐるので便利である。

東洋史大綱　矢野仁一著、一册、目黑書店刊、書名通り大綱で詳細を盡したものではないが、概說書としては第一に推さるべきものであらう。著者は現在東洋史學界の最大權威。面白く讀ませるといふていのものではないが、記述は最も正確。簡勁な語句の中に著者の識見は充分に見られ、豐富な插圖も著者獨自の選擇になるものである。

概觀東洋通史　有高巖著、一册、同文書院刊、前者と共に最も廣く行はれてゐる概況書である。よく最新の學說をも收納消化し、公正明確な批判を與へてゐる。概說書として又第一等のものであらう。

支那四千年史　後藤末雄著、一册、第一書房刊、入門概說書としては分量も適當で、平易明快な記述が喜ばしい。但だ文化方面の記述に偏重し、且つ、近世を述べること略に過ぎる憾みがある。

支那文化と支那學の起源　後藤末雄著一册、第一書房刊、元來著者の學位請求論文であるが、それでゐて少しの堅苦しさもなく、暢快明達の行文には敬服の他ない。明末清初、主としてフランスで行はれた支那研究を問題としたものであるが、ひろく一般の支那文化支那學等の問題に觸れ、支那史乃至支那そのものを考へる上に幾多の重要な問題と解決とを與へてゐる。學位論文であるから其の記述に就ては一々出典が附注され、讀者にとつては頗る便利有益である。

東洋文化史研究　內藤虎次郎著、一册弘文堂刊、云ふまでもなく、著者は不世出の支那學者であつた。本書は、著者の死後、生前、新聞雜誌等に發表した支那文化關係の論說を集錄したもので、一貫した體系を持つものではないが、最も含蓄に富む支那文化解說書である。

支那史研究　市村瓚次郎著、一册、春秋社刊、著者の支那學に關する論文集である。專門的なものであるが、割合平易に讀み得る。

近代支那史　矢野仁一著、一册、弘文堂刊、著者の最も得意とする清朝史概說である。概說清朝史としてこれ以上のものはない。歷史は近代の理解から次第に古く溯るがよい。この意味に於て本書の如きは先づ第一に讀まるべきものであるかも知れない。但し本書の讀解には相當程度の豫備知識を必要とする。

同じ著者の執筆になる**近代蒙古史研究と西藏史研究**とがある。蒙古問題の重要性については贅言をまたず、近くまた西藏が問題の渦中に入ることも當然である。蒙古、西藏等の歷史的政治的問題に關聯してこの書は又必須のものである。

昭和十七年三月十五日印刷納本
昭和十七年四月一日發行
四月號（每月一回一日發行）
編輯者　北京・華北交通株式會社資業局　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　大橋松雄
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房　振替東京六四二二三番　電話九段（33）一一四一五番　三三四四番
會員登錄番號　一一六五〇八番
一册定價三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢
配給元　東京市神田區淡路町二丁目九番地　日本出版配給株式會社
廣告取扱　大阪市西區京町堀上通一丁目二五　一手取扱所　一新社　電話土佐堀九三九

禁無斷轉載・檢閱濟

NISSEN

特に化膿症婦人科症に對する治療の的確と安全を期す……

◇醫界の定説
化膿菌に對する化學療法に二基ズルホンアミド劑が奏効適確であることは既に醫界の定説です。

◇治療の要諦
近時各種のズルホンアミド劑が簇出してゐる際其撰定に當つては化學的純度高きものを採ることが治療の要諦と申すべきです。

◇ポレオン「日染」
ポレオン「日染」は二基ズルホンアミド劑の純正品にして單に内服に依り左記諸疾患に對し短期間に奏効するを特徴と致します。

適應症
化膿性婦人科疾患　扁桃腺炎
中耳炎　丹毒
惡性感冒　其他あらゆる化膿性疾患

包裝　二〇錠・一〇〇錠

ポレオン錠「日染」

製造發賣元　日本染料製造株式會社　大阪市此花區春日出町
一手販賣元　株式會社稻畑商店　大阪市南區順慶町二丁目

NISSEN

砒素驅黴劑

"日染"の新發賣！

今般弊社が完成したサビノールナトリウムは日本藥局方アルゼノベンゾールナトリウムに一致し其の規格に適合然も嚴密なる効力試驗並に臨床試驗を經て發賣す。
時局下眞面目なる醫藥の要望さるゝ折柄自信を以て御薦めし得る「日染」の驅黴劑を御認識賜はり御愛用あらん事を誌上を以て懇願申上げ新發賣の御挨拶に代へる次第であります

一號　二號　三號　四號　五號　六號
各一管入及一〇管入

サビノールナトリウム

製造發賣元　日本染料製造株式會社　大阪市此花區春日出町
一手販賣元　株式會社稻畑商店　大阪市南區順慶町二丁目

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十七年三月十五日印刷納本　昭和十七年四月一日發行（毎月一回一日發行）第三十五號

北支 定價三十錢

300tablets
Metabolin
TABLETS STRONG Takeda
「強力メタボリン錠」タケダ

胃腸疲勞・榮養に

ビタミン
V・B₁の不足は胃及び腸の活動低下を來し、各筋肉の無力狀態を起し食慾不振、便秘の原因となる。
か様な場合高單位のビタミンB₁劑「强力メタボリン錠」の服用は、根本的に胃腸組織を賦活して筋肉の緊張を調整し、その過勞を恢復すると共に、消化液の分泌を亢めて食慾を旺盛ならしめ、榮養素の吸收を促進し、以て疾病の治癒を容易ならしむ。

V・B₁含有量 一錠中〇・五ミリグラム

〔適應症〕胃腸疾患、食慾不振、胃腸無力症、病中及び恢復期患者並に妊・産・授乳時の榮養障害、疲勞の恢復等、

★包裝　100錠　300錠

强力メタボリン錠

製造發賣元　株式會社　武田長兵衛商店　大阪市道修町
關東代理店　株式會社　小西新兵衛商店　東京市本町

2(2)45